

# 令和5年度(2023年度)調査研究事業報告書

## 生涯学習事業に係る県内の現状 及び県外の先進事例



【R5くまもと県民カレッジ  
主催講座(前期)リーフレット表紙】



【R5地域の人づくり講座  
(人吉球磨地域教室)】



【R6くまもと県民カレッジ  
認定講師一覧表紙】

令和6年(2024年)3月  
熊本県教育委員会

# 目 次

はじめに	1
第1章 調査研究の概要	2
第2章 市町村の生涯学習事業の現状及び考察	3～23
第3章 県と市町村の連携事業	
1節「地域の人づくり講座」3年次経過報告	24～31
【事例1】公民館関係者等の人材育成を目的とした講座（天草市）	
【事例2】地域学校協働活動推進員等の人材育成を目的とした講座（人吉・球磨10市町村）	
2節「地域の人づくり講座」2年次経過報告	32～37
【事例3】地域学校協働活動推進員等の人材育成を目的とした講座（合志市）	
【事例4】生涯学習・生きがいくりの場としての「たまり場」づくりを目的とした講座（小国町）	
3節「地域の人づくり講座」1年次経過報告	38～41
【事例5】山村留学を核とした、地域人材の発掘、育成を目的とした講座（産山村）	
【事例6】地域人材の育成・活用による公民館講座の実施を目的とした講座（和水町）	
第4章 学習機会提供事業	
【県民カレッジ主催講座】	42～45
①「新しい旅」コース	
②「熊本学（祭り）」コース	
③「一人暮らし」コース	
④「メタバース」コース	
第5章 他県の先進事例	46～49
【事例】障がい者の生涯学習支援	
〔資料〕	
市町村対象アンケート調査票	50～54

## はじめに

昨年5月、新型コロナウイルス感染症の5類移行を受け、これまでの日常を少しずつ取り戻してきました。社会教育に関しましても、以前のように、対面で行われる活動が各方面で執り行われておりますことに対して、深く感謝申し上げます。

さて、令和5年6月に「第4期教育振興基本計画」が閣議決定され、「地域や家庭で共に学び支え合う社会の実現に向けた教育の推進」が示されています。社会教育を通じた持続可能な地域コミュニティの基盤形成や公民館等の社会教育施設の機能強化等、今後、ますます社会教育に対するニーズが高まると考えております。

また、「第3期くまもと夢への架け橋教育プラン」の生涯学習推進の取組事項として、「学習機会と学習成果活用の充実」が位置づけられています。この中では、生涯のあらゆる場面において行う学習に対して、地域課題や県民の学習ニーズに応じた学習機会、学習情報の提供に努め、さらに、学習した成果を生かして、学校、地域で地域課題の解決やまちづくりにつながる活動を推進することが求められています。

そこで、本県では、県と市町村の連携事業である「地域の人づくり講座」をはじめ、生涯学習に携わる人材の資質・能力を高めるとともに、様々な関係機関や団体とのネットワークづくりを目的とした「生涯学習コーディネーター養成講座」、広く県民一般の方への学習機会の提供のための「くまもと県民カレッジ」等、様々な講座を実施して参りました。

本調査研究報告書では、市町村の生涯学習に係る現状をはじめ、地域の人づくり講座、県民カレッジ主催講座、他県における障がい者の生涯学習支援事業の先進事例等についてまとめました。

本調査研究報告書が、各市町村等において活用され、生涯学習・社会教育に係る取組が尚一層充実するための一助となれば幸いです。

最後に、調査に御協力いただきました市町村教育委員会及び県内外関係者の皆様方から感謝申し上げます。

令和6年（2024年）3月

熊本県教育庁市町村教育局社会教育課長

福永 公彦

## 第1章 調査研究の概要

### 1 調査の目的

#### (1) 市町村支援

市町村における学習機会提供事業の充実等、生涯学習振興の支援のため、地域課題解決に向けた学習プログラムの開発及び県内の先進事例の情報収集を行い、市町村教育委員会をはじめとする関係機関に提供するとともに、次年度の事業に活用する。

#### (2) 市町村基礎情報収集

生涯学習推進及び社会教育行政に必要な基本的情報を収集し、社会教育課事業の基礎資料とする。

### 2 調査の対象

県内全市町村教育委員会（社会教育・生涯学習担当課：45市町村）、熊本市公立公民館（19館）、及び他県教育委員会（1県）

### 3 調査の実施期日

令和5年（2023年）12月15日（金）～令和6年（2024年）1月15日（月）

### 4 調査内容及び方法

#### (1) 県内市町村教育委員会、熊本市公立公民館に、次の点についてアンケートを依頼

○主催事業について

○学習成果活用を目的とした事業について

○生涯学習全般について

#### (2) 障害者の生涯学習支援事業を行っている先進地を視察、取組等について報告

令和5年度 文部科学省 生涯を通じた障がい者の学び支援事業

「共に学び、生きる共生社会コンファレンス ～おおいたでかたろうえ！～」

### 5 県内市町村・熊本市公立公民館調査回収率

対 象	依頼市町村数	回収市町村数	回収率 (%)
市（教育委員会）	14	14	100
町（教育委員会）	23	23	100
村（教育委員会）	8	8	100
熊本市公立公民館	19	19	100
全 体	64	64	100

## 第2章 市町村の生涯学習事業の現状

市町村の生涯学習に関する現状を把握するために、住民を対象とした講座内容や講座の実施回数、講座終了後の評価等について県内各市町村へアンケート調査を実施した。調査結果の概要は以下のとおりである。(数字は単位記載のものを除き市町村数)

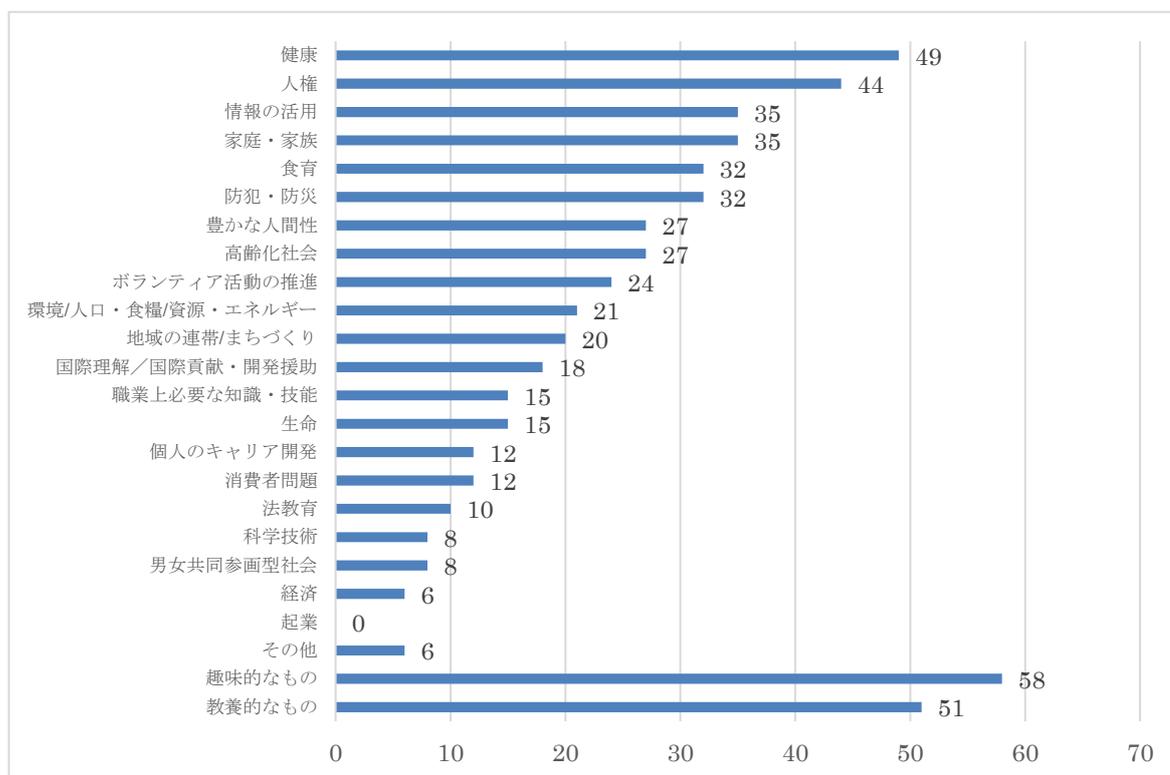
問1 本年度、貴市町村の教育委員会（公民館等も含む）主催で、生涯学習に関する講座や講演会を実施しましたか。（予定も含む）

【表1：各市町村における講座の実施の有無】

	H31(令和元)	令和2	令和3	令和4	令和5
実施した	45	36	43	45	45
実施していない	0	9	2	0	0

本年度は、県内全ての市町村で講座を実施した。新型コロナウイルス感染症が第5類となったことにより、コロナ禍以前の状況に戻っている。

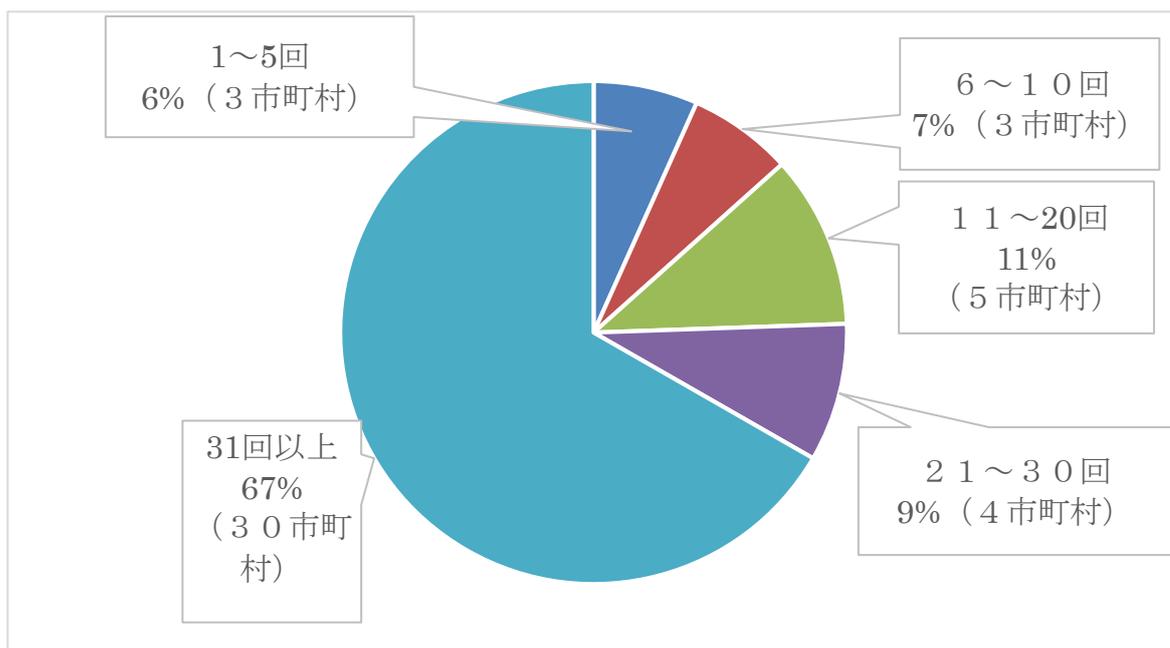
問2（1）本年度実施した(予定)講座や講演会の学習領域に○印をつけてください。〔複数回答可〕



学習領域は、「健康」が一番多く、次いで「人権」、「情報の活用」「家庭・家族」、「食育」「防犯・防災」の順である。昨年度に比べ、全体的に実施講座数が大きく増えている。

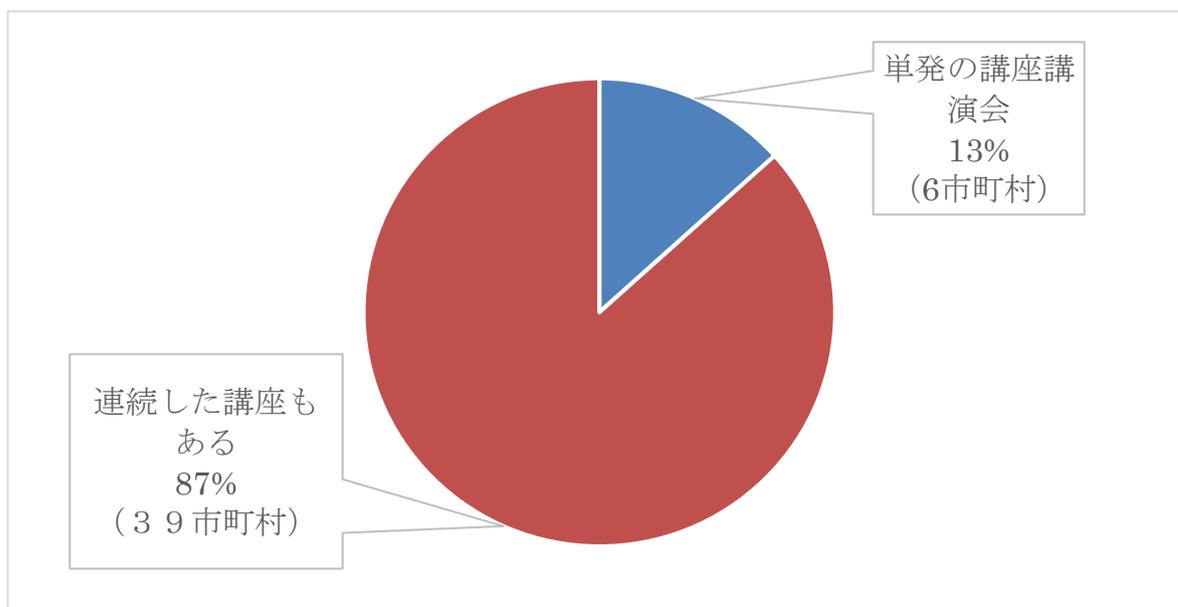
その他の領域としては、「地域を知る講座」「木育」「アート教室」「親子体験教室」など地域の特性やニーズに応じた講座が実施されている。

(2) (1) の講座等の合計実施回数を選んでください (予定も含む)。



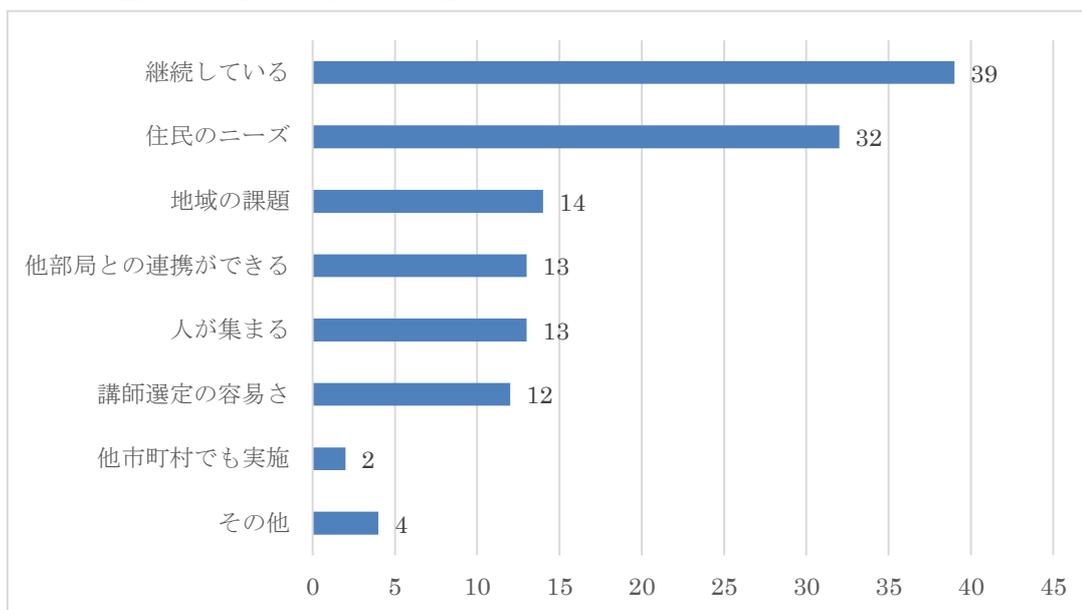
年間実施回数は、「31回以上」が30市町村(67%)と一番多く、次いで「11回～20回」、「21回～30回」、「6～10回」、「1～5回」の順である。昨年度と比べると「31回以上」は5%増、「21回～30回」は2%増、「11～20回」は増減なし、「6～10回」は4%減、「1回～5回」は3%減であり、実施回数が年間31回以上という市町村が6割を超えている。

(3) (1) の講座等の実施形態について、当てはまるものを選んでください。



実施形態は「連続した講座」が39市町村(87%)、「単発のみの講座」が6市町村(13%)である。昨年度と比較すると、「単発のみの講座」が3%減少、「連続した講座」が3%増加している。

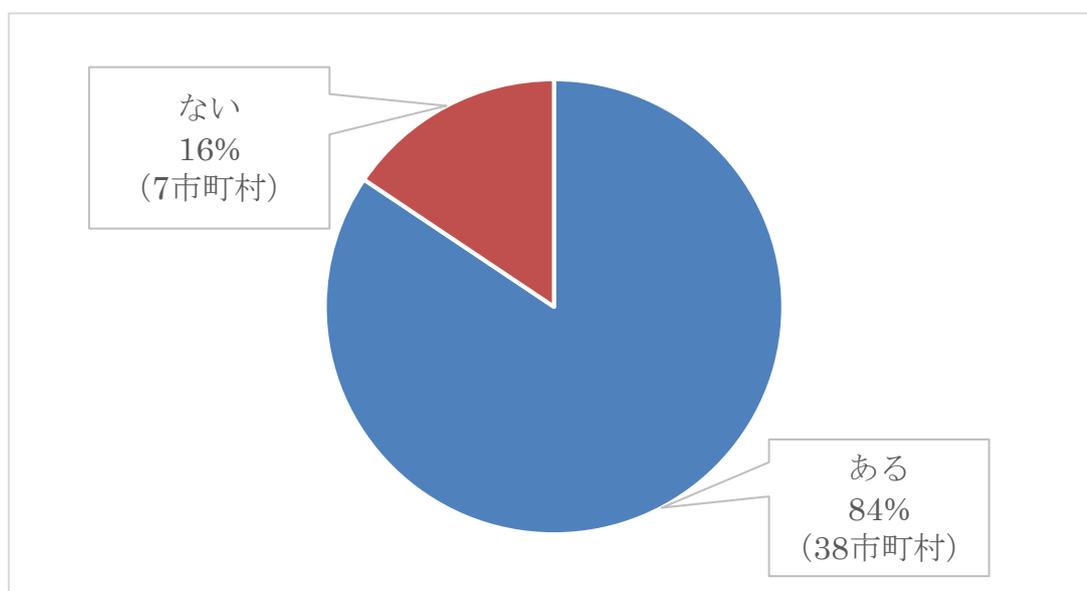
(4) (1) の講座等の学習領域を選んだ理由は何ですか。〔複数回答可〕



学習領域選定の理由は、昨年度同様、「継続しているから」「住民のニーズが高いから」「地域の課題だから」「他部局との連携ができるから」「人が集まるから」の順である。昨年度に比べ、「地域の課題」は5市町村減少している。

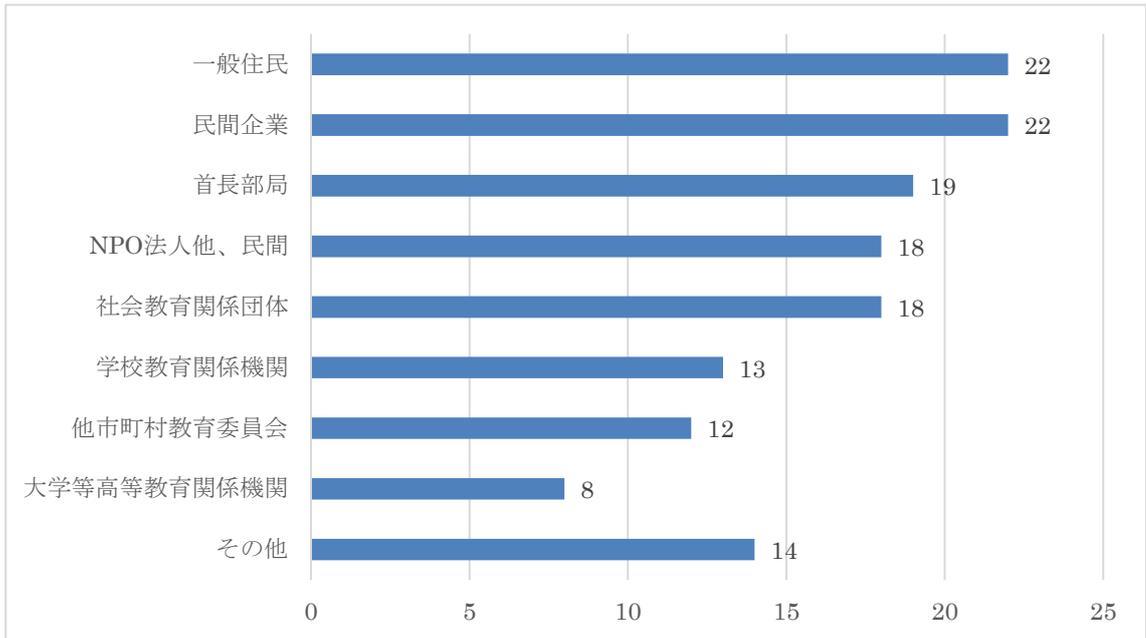
その他の理由としては、「自治体の取組目標に関するもの」「地域外への発信」「コロナ禍で生じた課題の解消」等が挙げられている。

(5) (1) の講座を実施するにあたり、連携・協力した個人・機関（構成員を含む）がありますか。



「連携・協力」を行った市町村は、38市町村（84%）であった。昨年度比で6%減少している。

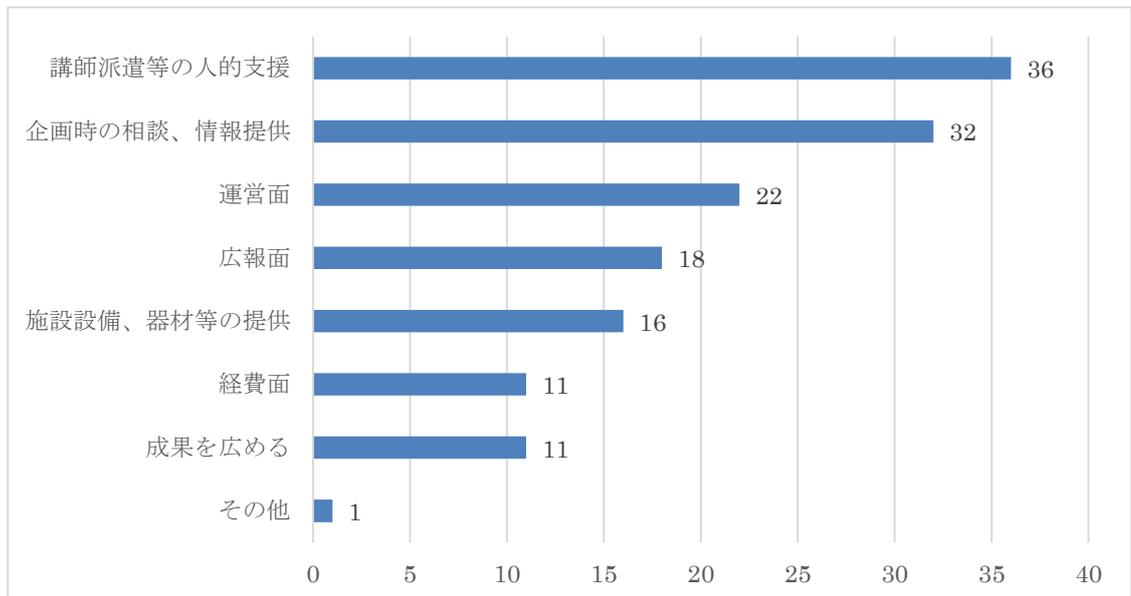
また、連携先は、どのような機関ですか。〔複数回答可〕



講座実施の連携先としては、「一般住民」「民間企業」「首長部局」が上位である。全体として、多くの機関と連携、協力して講座が実施されていることがわかる。

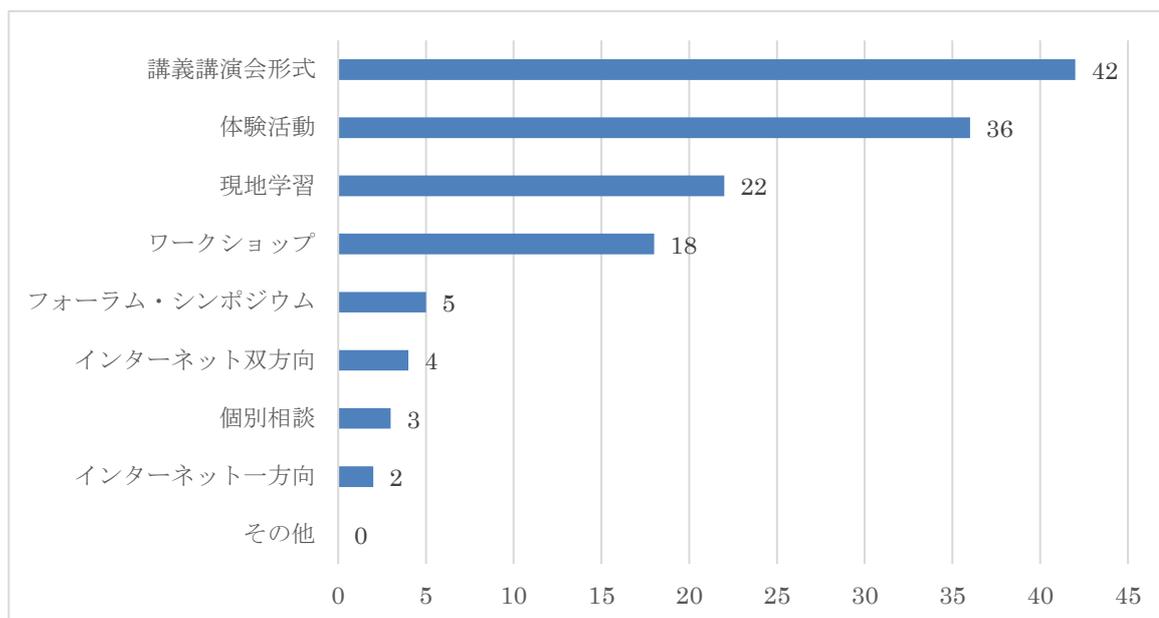
その他の連携先としては、「老人会」「婦人会」「法務局」「保護司会」「障がい者支援団体」「警察」「県庁等公的機関」などが挙げられている。

(6) (5) の機関とは、どのような内容や場面で連携・協力しましたか。〔複数回答可〕



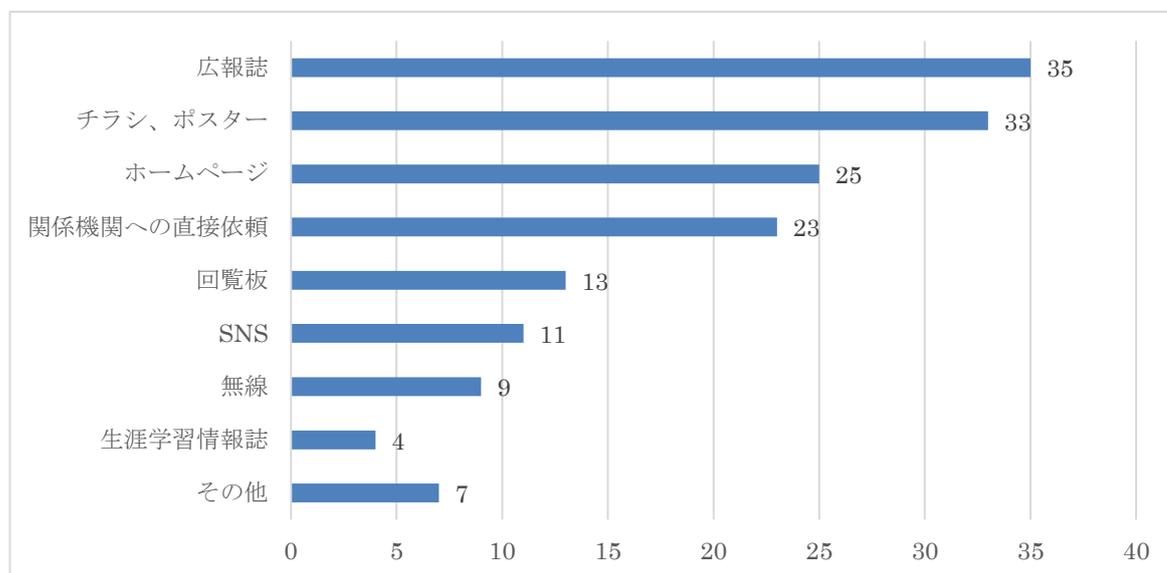
連携内容や場面については、「講師派遣等の人的支援」「企画時の相談、情報提供」「運営面」が上位である。企画の段階から関係機関と連携している市町村が多いことがわかる。

(7) (1) の講座等はどのような学習形態でしたか。〔複数回答可〕



学習形態は、「講義・講演会形式」「体験活動」「現地学習」と「ワークショップ」の順である。昨年度と比較すると、「講義講演形式」「体験活動」「現地学習」が増加傾向にある。対面形式の講座が再開された後も「インターネット」活用を継続している市町村がある。

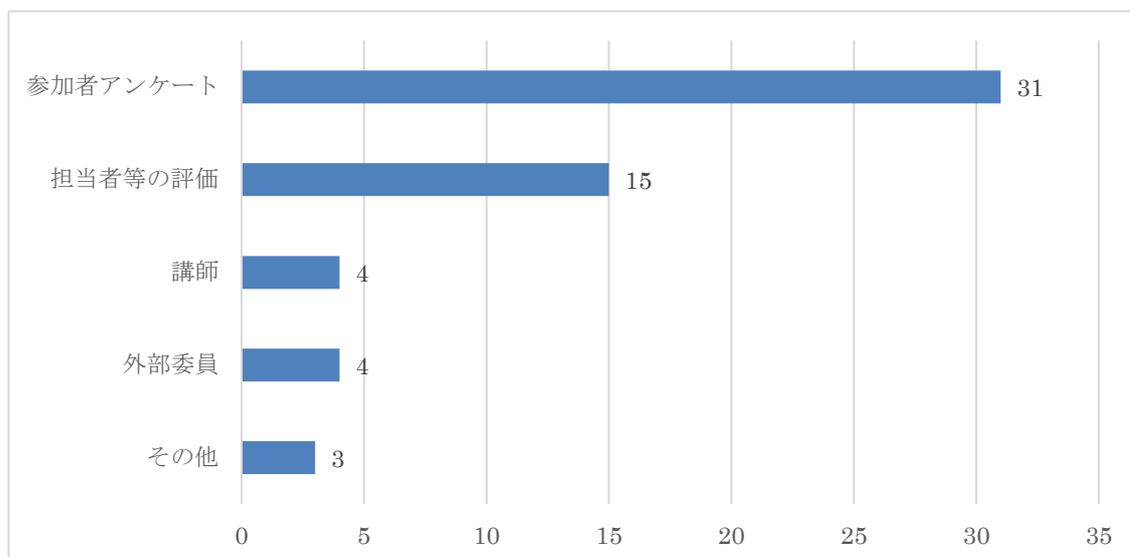
(8) 広報はどのような手段で行っていますか。〔複数回答可〕



講座の広報手段は、「広報誌掲載」「チラシ、ポスター配布」「ホームページ掲載」「関係機関への直接依頼」が多い。昨年度と比較すると、「SNS」が5市町村増加している。

その他の方法としては、「CATV等有線放送」「受講生や代表者への直接連絡」「ラジオ放送」「全戸配布」等の手段が挙げられている。

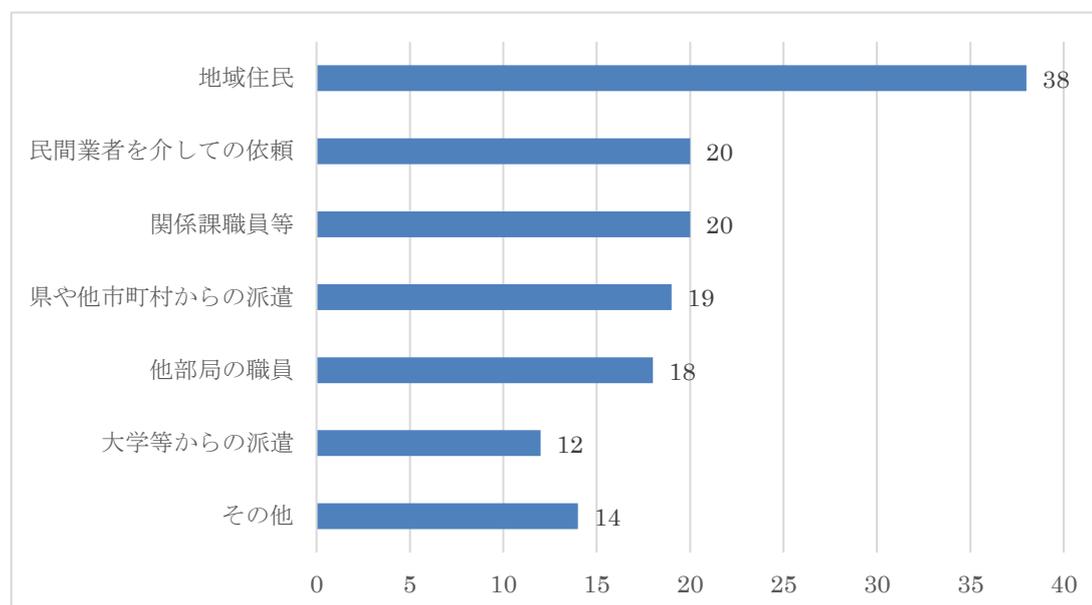
(9) 講座評価をどのように行っていますか。〔複数回答可〕



講座の評価方法については、9割の市町村が何らかの形で講座評価を行っており、昨年同様、「アンケート」による評価が最も多い。

その他としては、「参加者への聞き取り」「講座日誌閲覧による評価」等が挙げられている。

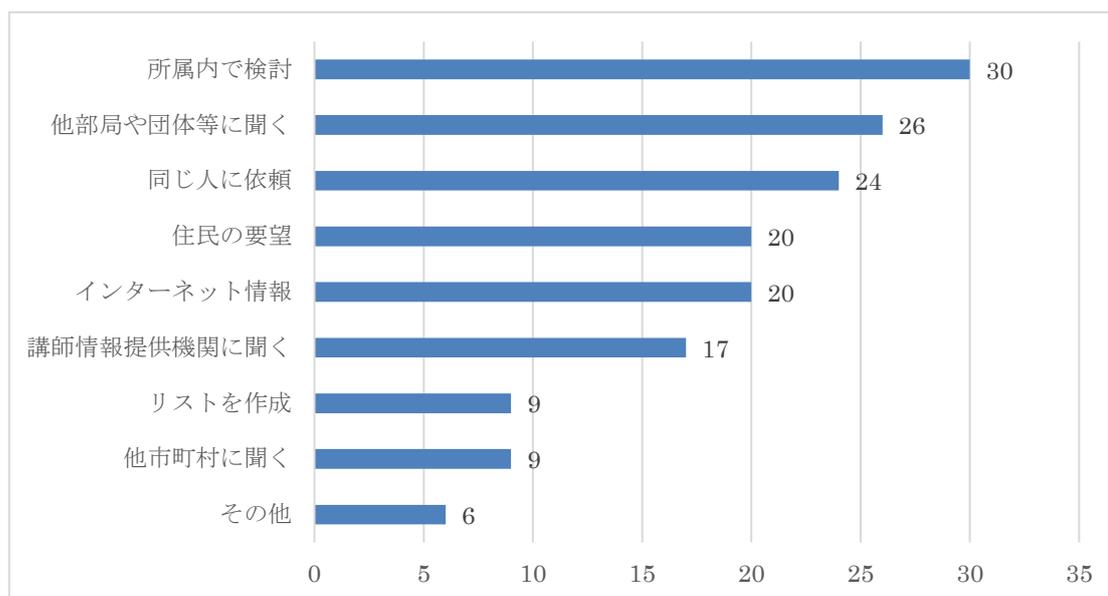
(10) どのような人が講師を務めましたか。〔複数回答可〕



講座を務めた講師は、「地域住民」「民間業者を介しての依頼」と「関係課職員等」の順である。

その他としては、「民間団体」「個人事業者」「地域人権教育指導員」「医療関係者」「金融機関関係者」「犯罪被害者遺族」「公的機関」等が挙げられており、多様な連携が図られている。

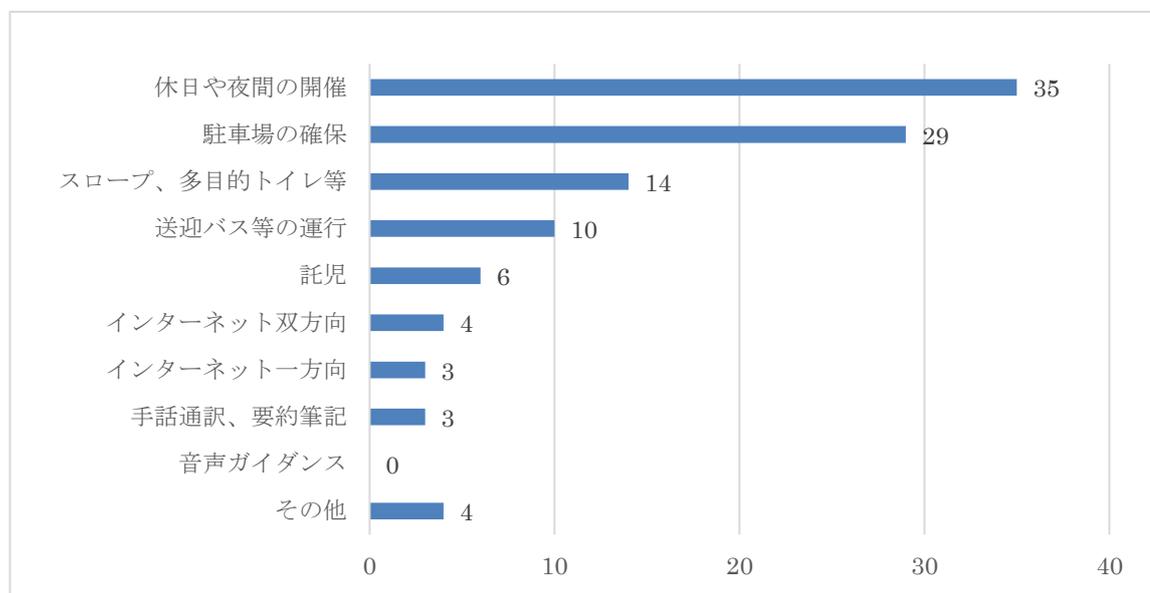
(11) 講師情報をどのように得ていますか。〔複数回答可〕



講師の情報源は、「所属内で検討」「他部局や団体等に聞く」「同じ人に依頼」と「住民の要望」と「インターネット情報」の順である。

その他としては、「事業を推進している部署に尋ねる」「担当者のネットワーク」「生涯学習情報誌」「人材バンク」「新聞・雑誌等の情報」が挙げられている。

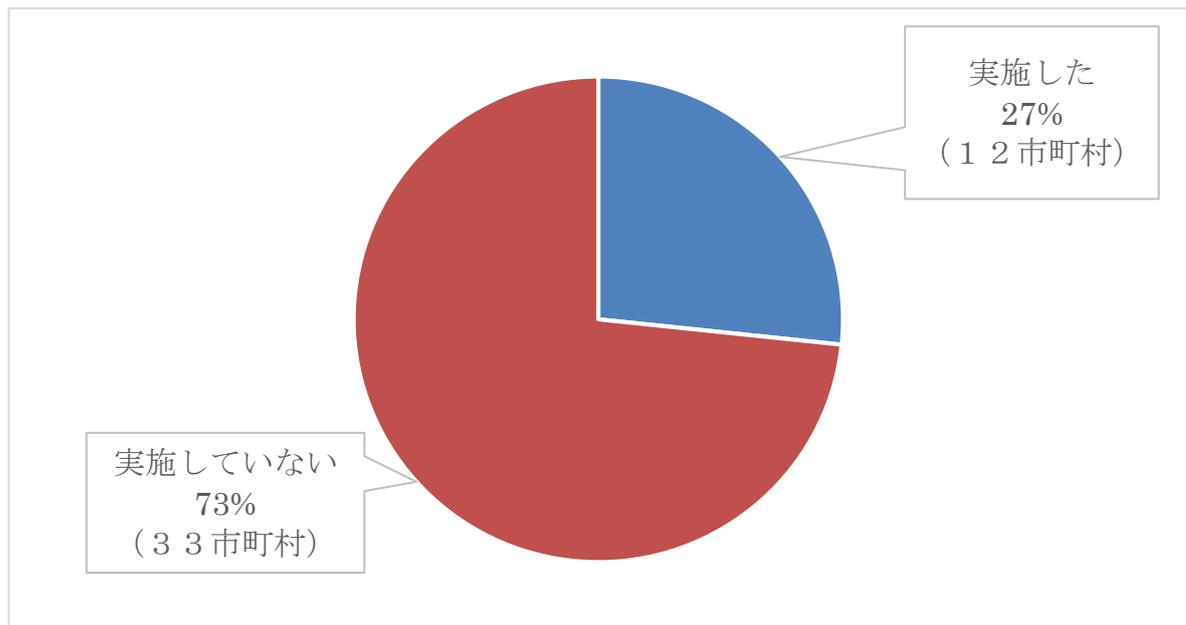
(12) 住民が参加しやすいように、どのような支援を行っていますか。〔複数回答可〕



住民が参加しやすいように、「休日や夜間の開催」「駐車場の確保」「スロープ、多目的トイレの設置」等の支援が行われている。

その他としては、「電子申請サービスでの参加申込」「放課後の実施」「CATVによる放送、広報誌、告知放送」等が挙げられている。

問3 学習成果活用を視野に入れた講座（人材育成や仲間づくり、仕組みづくり等）を実施しましたか（予定も含む）。



学習成果活用を視野に入れた講座を「実施した」市町村の割合は、12市町村（27%）である。昨年度と比較すると6%減少している。

次の表に示すのは、学習成果活用を視野に入れた講座の具体例である（回答があった市町村及び熊本市公民館のみを示す）。

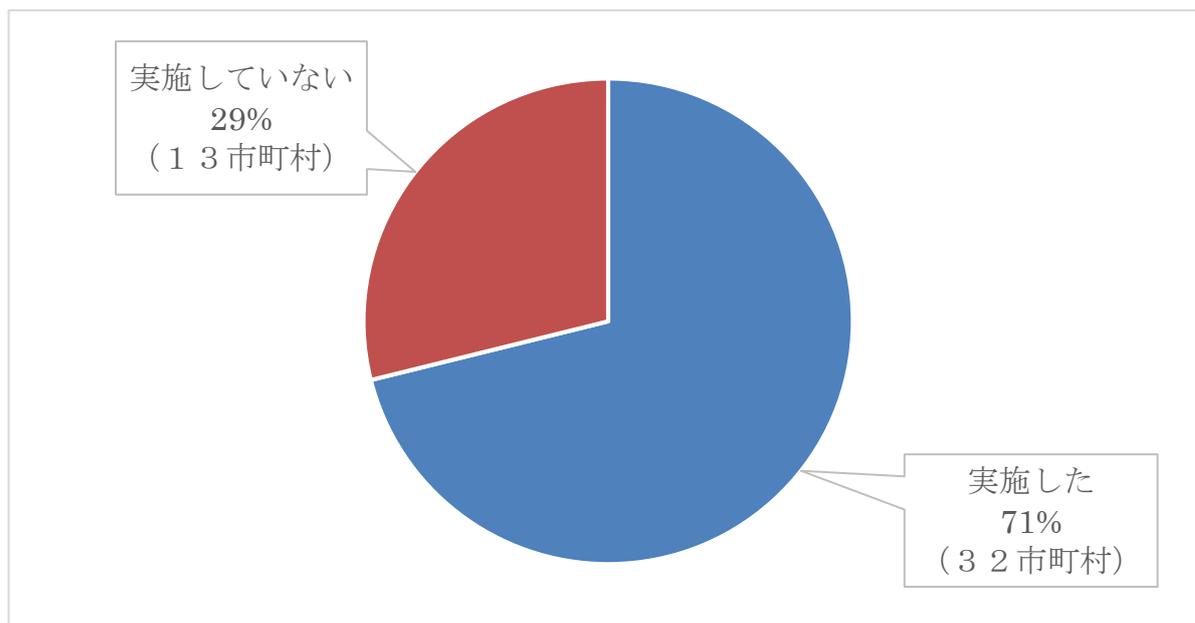
市町村等	講座名	内 容
人吉市	地域の人づくり講座	県と共催する地域学校協働活動推進員等の育成講座。3／3年目
荒尾市	ボランティア養成	ボランティア活動の意義や方法について学ぶ講座。
天草市	地域の人づくり講座	県と共催する公民館関係者の育成講座。3／3年目
菊池市	キクロスカレッジ	域課題の解決や地域の活性化に向けて、各分野で活躍する地域リーダーを育成する講座。
宇城市	もっと知りたい三角西港	宇城市内の教職員を対象に世界遺産である三角西港の概要を知り、フィールドワークでさらに深める講座。
合志市	地域の人づくり講座	県と共催する地域学校協働活動推進員等の育成講座。2／3年目
	初めての楽しい陶芸	基礎から陶芸体験ができる講座。
和水町	地域の人づくり講座	県と共催する地域の連帯やまちづくりに参画する人材の育成講座。1／3年目
菊陽町	ジュニアリーダー養成講座	小学5年生から高校生を対象に、学校や地域のリーダーとして活躍できる人材を育成する講座。
	学生ボランティア養成講座	主催講座等の運営補助など、参加する小中学生のリーダーとして

	成講座	活躍できる人材の育成する講座。
小国町	地域の人づくり講座	県と共催する地域の連帯やまちづくりに参画する人材の育成講座。2/3年目
産山村	地域の人づくり講座	県と共催する地域人材の発掘、育成を目的とした講座。1/3年目
嘉島町	読み聞かせ講座	読み聞かせの基本やコツを学ぶ講座。
益城町	そろばん教室	そろばん教室で基礎を学び、地域の小学校の授業の手伝いにつなげる講座。
氷川町	ふれあい大学	高齢者が豊かに社会生活と積極的な生きがいを求めるために学習する講座。
錦町	地域の人づくり講座	県と共催する地域学校協働活動推進員等の育成講座。3/3年目
	錦未来塾	中学生の英検（日本英語検定協会）受験者を対象に、合格を目指した受験対策講座。
あさぎり町	地域の人づくり講座	県と共催する地域学校協働活動推進員等の育成講座。3/3年目
多良木町	地域の人づくり講座	県と共催する地域学校協働活動推進員等の育成講座。3/3年目
湯前町	地域の人づくり講座	県と共催する地域学校協働活動推進員等の育成講座。3/3年目
水上村	地域の人づくり講座	県と共催する地域学校協働活動推進員等の育成講座。3/3年目
相良村	地域の人づくり講座	県と共催する地域学校協働活動推進員等の育成講座。3/3年目
五木村	地域の人づくり講座	県と共催する地域学校協働活動推進員等の育成講座。3/3年目
山江村	地域の人づくり講座	県と共催する地域学校協働活動推進員等の育成講座。3/3年目
球磨村	地域の人づくり講座	県と共催する地域学校協働活動推進員等の育成講座。3/3年目
中央公民館	「心の気づき 傾聴講座」	相手に寄り添い、言葉に耳を傾けることを基本に、物事をプラスに評価しながら話を聴くことを学ぶ講座。
五福公民館	秋季文化のつどい	学びの発表の場とする講座。
西部公民館	PCスマホよろず相談	パソコンやスマートフォンに関するお尋ねに一問一答方式に応える講座。
龍田公民館	心に寄り添う傾聴	「傾聴」について基本的な技法を学ぶ講座。
幸田公民館	親子ロボット教室	コンピューター操作で動くロボットの仕組みを学んだり、実際に動かしてみたりして、ロボット作りの興味・関心を高める講座。
	防災食教室	防災食について学び、人材活用につなげる講座。
秋津公民館	家庭教育学級親子パン作り	親子でパン作りを行いながら、他の親子ともコミュニケーションをとり、仲間づくりを行う講座。
清水公民館	夜のおはなし会	おはなしボランティアの養成を目的とした講座。
大江公民館	スマホお悩み相談室	スマホ操作で悩んでいる方々に、高校生ボランティアがマンツーマンで悩みを解決していく講座。

花園公民館	PCスマホなんでも相談室	パソコンやスマートフォンについて、集まった人で学び合い、自然なつながりや仲間つくりをねらう講座。
北部公民館	自主講座学習発表会	学習してきたことの成果をステージ部門、展示部門、スポーツ交流部門にわかれて発表する講座。
飽田公民館	マナーアップ講座	中学生がナイスライ事業として職場体験をする前に、あいさつや思いやりの心等、礼節やマナーについて学び、実践する講座。
河内公民館	みんなでやろう！「河内元気体操」	地域の方々と作成した体操を学び、地域で活用につなげる講座。
天明公民館	防災や自治会活動に活かすLINE講座	管内の自治会長や自治会担当者向けに、SNSのLINEを活用できるようにすることを旨とする講座。
富合公民館	はじめての傾聴講座	高齢者施設や災害住宅等での相談や悩みの聞き取りなどに向けた「傾聴」の技能と理論を学ぶ講座。
城南公民館	キッズ・ダンス	グループによる創作ダンスに取り組み、まとめの成果を発表会につなげる講座。
	3B リフレッシュ体操	3つの体操器具を用いた健康体操運動を活動成果の発表につなげる講座。
	初めて学ぶ 日本舞踊	日舞の練習の成果を発表につなげる講座。
	夏休みの宿題を終わらせよう	退職教職員や地域住民・高校生を見守り先生として、小学生の夏休みの宿題学習支援活動を行う講座。
植木公民館	植木の史跡・名所の歴史を学べ（ボランティア養成講座）	植木の史跡・名所についての歴史的学びを通して（現地学習会も行う）、植木の良さを知ってもらうとともに、学んだことをもとに、田原坂ガイド等のボランティア活動を行うことができる人を養成する講座。

回答状況から、地域で活躍する人材の育成やつながりづくりを視野に入れた講座を実施している市町村及び公民館が数多く見られた。

問4 本年度、子供を対象とした事業を何か実施しましたか（予定も含む）。



昨年度と比較すると、実施した市町村が2%増加している。

次は、実施した市町村の事業例である。（回答があった市町村及び熊本市公民館のみを示す。）

市町村等	事業名	内容
八代市	キッズチャレンジ2023	アウトドアスクール、陶芸教室、宿泊体験、親子体験を実施。
	Scratch でオリジナルゲームづくり	プログラミングソフト Scratch を使ったゲーム制作を行う。
人吉市	校区公民館子ども講座	体操、囲碁、ダンス、琴、バドミントン、よさこい踊り、大正琴、折り紙、お菓子作りを実施。
荒尾市	親子パン教室	絵本に出てくるパン作りを行う。
	ケーキ教室	クリスマスケーキ作りを行う。
	工作教室	竹細工等の工作を行う。
	キッズヨガ	子どもたちを対象としたヨガを行う。
水俣市	みなまた未来ラボ	市内の中学生・高校生を対象に水俣市の現状や課題について学び、自らできること、市として取り組むべきことなどをグループで考え、発表する。また、市に対して意見を提言する。
	童話教室	子どもたちに童話を聞くこと話すことの楽しさをもっと知ってもらえるように、テーマを決めて実施。
玉名市	親子クリスマスケーキ作り、親子スライム&プラ	絵本に登場するパンを親子で製作し、焼き上げる間に読み聞かせを実践するといった講座を開催。

	バン工作など多数	子供又は親子を対象としたモノづくりや科学の実験などを実施。
天草市	読書活動推進事業	図書館で親子で楽しめる木育ワークショップを実施。
山鹿市	国際交流事業	ALT によるプログラム及びオーストラリアの姉妹都市とのオンライン交流を実施。
菊池市	キッズチャレンジクラブ	菊池・七城・旭志・泗水で様々な活動を行い、郷土への理解と郷土愛を育む活動を実施。
宇土市	地域教育力活性化事業	農作物の苗植えや収穫、昔遊びや工作などを通じ、地域住民や異なる学年の児童と活動を共に行うことを通じて情操の形成や郷土愛を育むことをねらいとする事業を実施。
宇城市	子供の楽校	子供たちが社会体験や自然体験などのさまざまな活動を経験しながら地域の人たちとの交流を図り、豊かな人間性やたくましく生きる力を育むことを目的にした子供向けの講座を実施。
	夏休み親子講座	夏休み期間中に、小学生を対象にした家族で参加できる講座を実施。今年度はバッグチャーム、サンドアート、ウエルカムボード作りを行った。
合志市	自然体験教室	焚火での炊飯を行い、自然をテーマとしたゲームを通して自然体験ができる教室を開催。
美里町	英会話教室	全世代を対象に、誰でも気軽に参加できるレベルの英会話教室を実施。
玉東町	通学合宿	町内小学4、5年生を対象に、2泊3日で親元を離れ町公民館に泊まり込み、集団生活を行い学校に通うことで、協調性と自立を促す事業を実施。
大津町	キッズ英会話	小学生を対象に全6回の英会話教室を実施。
菊陽町	青少年育成事業など	アクティブキッズキャンプや図書館お泊り探検隊、野外体験活動などの活動を実施。
産山村	村人権集会に係る講演	学園児童生徒及び地域住民を対象に、集会における学習会として人権に係る講演を開催。
高森町	放課後子ども教室	町内の小学生を対象に、月1回のわくわく土曜教室を実施。
御船町	子育て遊園地	御船町子育て連絡協議会との共催で、子供向けのレクリエーションと県劇ネットワーク事業を活用し親子で楽しめる公演を開催。
嘉島町	朗読コンクール	小学生の希望者を対象とした朗読コンクールを開催。
益城町	どんぐり工作	どんぐりを使った工作を行う講座を実施。

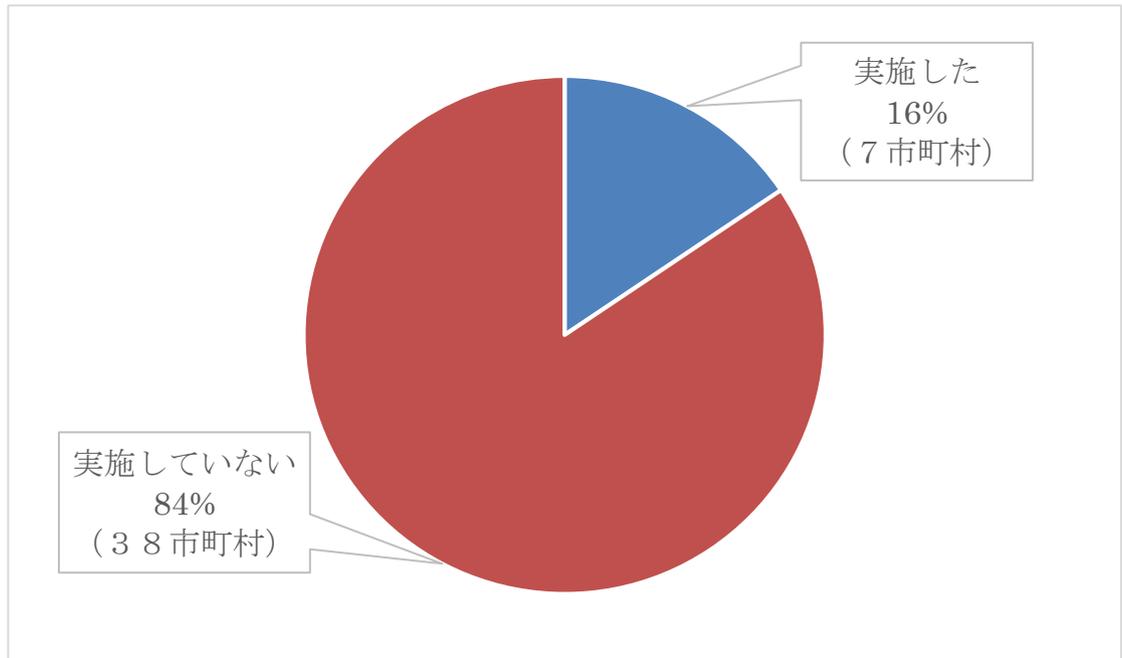
甲佐町	子ども講座	放課後児童クラブでビニール傘袋を使った工作などを行う講座を実施。
山都町	子ども茶道教室	夏休み期間中に小学生・中学生を対象とした茶道教室を実施。
氷川町	子ども人権教室	子ども一人ひとりの人権意識を高め、自尊感情を高められるようにする人権教室を実施。
芦北町	子ども講座	夏休み期間を中心にそろばん講座、茶道講座、フラダンス講座を開講。地域の祭りや文化祭などで成果発表を実施。
津奈木町	つなぎ遊びの学校	町内の小・中学生を対象に、様々な活動を提供。
錦町	English Summer Day Camp English Winter Day Camp	1.Introduction (じこしょうかい) 2.Arts&Crafts (お絵かきや工作) 3.PlayGames!! (たのしいゲーム)などをテーマに実施。
あさぎり町	文化財講座	熊本博物館の協力で、金属を鋳型に流し込み銅鏡作って磨く鑄造体験を、小学生の部と一般(中学生以上)の部に分けて実施。
湯前町	英会話教室	町内の小学5・6年生を対象に、小学校のALTを講師として英会話を学ぶ活動を実施。
水上村	ふるさと塾	村内4、5、6年生対象に行う体験・奉仕活動を実施。
相良村	いけばな教室	花と親しみ、いけばなの基礎を学ぶ教室を実施。
	英会話教室	ゲームや本などで英語に親しみ、あいさつや簡単な英単語、英会話を学ぶ教室を実施。
五木村	夏休み子ども教室	小学生を対象に、郷土学習、村外見学を実施。
	天草小との交流事業	小学生を対象に、夏休み時の天草小との交流事業(川遊び、子守唄、カヤック体験等)を実施。
	ジュニアクラブ	子どもたちの放課後時間を使ってスポーツ文化に親しむ活動を実施。
中央公民館	こども科学工作ものづくり教室	熊本市ものづくりサークルの支援を受けて、身近な材料を使い、安価で、簡単で、科学の仕組みが分かるものづくり教室。
五福公民館	天体観測クラブ	街の中でもできる天体観測をテーマに、白川河川敷や吉無田高原、西合志図書館天文台等をステージに実施。
西部公民館	親子で料理シリーズ	月に1回親子で料理やお菓子作りなどを体験しながら学ぶことのできる講座。
南部公民館	親子クッキング教室	小学生とその保護者を対象に料理教室を開催。
東部公民館	子どもチャレンジ公民館	大学生サポーターのもと、小学生がアイデアを出してイベン

		トを企画運営する事業。
龍田公民館	クリスマスダンス	小学生によるダンスの創作活動。
託麻公民館	はかりのひみつ、教えてあげる	小学生を対象とした、計量検査所職員による重さの単位やはかりの歴史の講話と棒ばかりの作成活動。
幸田公民館	キッズイングリッシュ	小学2年生を対象にしたイングリッシュコーナーを開催。
	トランポリン教室	熊本トランポリンクラブと連携した小学生対象のトランポリン教室。
	折り紙教室	夏休みに小学生向けの折り紙教室を実施。
秋津公民館	小学生はじめての将棋	小1～小3の初心者を対象とした将棋教室を開催。
	絵の具の使い方の基礎基本	小学生を対象にした絵の具の使い方教室を実施。
	プログラミング体験	小中学生を対象としたプログラミング教室を開催。
清水公民館	子どもお琴	小学生が琴を体験する教室。
大江公民館	キッズ英会話を楽しもう	小学1、2年の部、3、4年の部に分け、工作や読み聞かせを入れた英会話の講座。
花園公民館	子ども生け花	就学前児童から高校生までのこどもを対象とした生け花教室。
北部公民館	ほくぶキッズ遊学塾	北部公民館管内在住の小学3年生～6年生の希望者を対象としたキャンプやそうめん流し、陶器づくり等の体験活動。
飽田公民館	鉄棒・跳び箱・マット講座	小学生対象に鉄棒、跳び箱、マット運動を行う講座。
河内公民館	体と心がほっかほかみんなにっこりスープ作り	芳野小2年生が公民館の講座を企画し、家族が喜ぶスープ作りを行った。
天明公民館	絵画、そろばん、英会話などの講座	夏休みや冬休み期間に、小学生向けに各講座を実施。児童室が施設内にあることから連携して乳幼児向けの活動も実施。
富合公民館	南区子どもチャレンジ公民館	南区の小学4～6年生の企画者（プランナー）を募集し、年間をとおしてイベントの企画や運営を経験させ、6人の社会教育主事が指導支援を行う事業。
城南公民館	キッズ・ダンス	グループによる創作ダンスに取り組み、まとめの成果を発表会につなげる講座
	キッズ・チャレンジ	子どもたちが企画・運営を図りながら、自主的に活動内容を考えて活動・実践を行う事業。

	あかちゃんといっしょふれあいサロン	公民館・児童館・図書館共催で、あかちゃん・乳幼児から小学生まで範囲対象に、毎月テーマを設定して講座等を実施。
	キッズ・トランポリン	幼児部・小学生部のトランポリン体験の講座を実施。
	つくって飛ばす！スーパー竹とんぼ	小学生（保護者）を対象に、国際竹とんぼ協会から講師の方々を招聘して、竹を加工して製作し、実際に屋外で自分の作品を飛ばして楽しむ講座。
	親子「足育」教室他	小学生（保護者）を対象に、熊本市文化スポーツ財団から講師の方々を招聘して、足の大切さの講話及び道具を使った動き方等を習得する講座。
植木公民館	お助け！夏休みの宿題・習字の部	小学校の夏休みの宿題・課題として出た習字を練習して仕上げる講座。

それぞれの地域にある資源や人材の活用、民間企業等と連携した講座が多く企画されている。講座内容としては、体験活動、ものづくり、ダンスや運動、リーダー育成など、工夫をこらしたプログラムが企画されている。また、親子で参加する講座や子供たち自身が企画・運営する講座が見られた。

問5 様々な障がいについての理解や障がいがある方への支援に関する講座を実施しましたか。



様々な障がいについての理解や障がいがある方への支援に関する講座を実施した市町村が、7市町村ある。平成26年の障害者権利条約の批准や平成28年の障害者差別解消法の施行等も踏まえ、障がい者の生涯学習機会の整備・充実が求められていることから、障がいの有無にかかわらず誰もが参加でき、共に学ぶ場の提供が必要である。

次は、実施した市町村の事業例である。(回答があった市町村及び熊本市公民館のみを示す。)

市町村等	内 容
荒尾市	手話体験イベント教室を実施。
天草市	支援が必要な子どもへの読み聞かせの研究を行う講座を実施。
菊池市	手話で日常会話ができるまちづくりを目指し、手話スクールを開講した。
玉東町	小学生を対象に、車いすバスケット体験や視覚・聴覚障害・肢体不自由についての学習会を開催。
嘉島町	手話講座を実施。
多良木町	手話講座を実施。
五福公民館	市の手話言語条例の制定を受け、日常的に手話を使われる講師を依頼し、講座を実施。
西部公民館	初心者向けの手話講座を実施。
東部公民館	初級手話講座や視覚障がいをお持ちの方のコンサートなどを実施。
龍田公民館	手話の学習をとおして視覚障がいに対する理解と支援について学ぶ「手話入門」の講座を企画。
託麻公民館	人権講演会の中で障がい者理解や支援に関する講話を実施。
幸田公民館	初めての方向けの手話教室を実施。
	ボッチャ体験講座を実施。
秋津公民館	小4向けに、視覚障がい者による講話と介助・点字体験を実施。
	視覚障がい者の方による、講話・コンサートを実施。
清水公民館	難病に向き合う方の体験談を聞く講座を実施。
花園公民館	手話講座を検討中。
北部公民館	全盲のヨットセーラー岩本光弘さんを講師に招いて障がいについてや生き方、考え方等についてお話を伺う講座を実施。
飽田公民館	学校の依頼を受け、手話に関する講座を実施。
河内公民館	オンラインで歌を歌ったり、健康体操をしたりする講座を実施。
天明公民館	天明文化祭の際に全盲のシンガーソングライターを招いて歌を披露してもらった。
	パラリンピック競技種目になっているボッチャ体験講座を実施。
富合公民館	家庭教育学級の講座の一つとしてパラスポーツボッチャについて、競技指導員と障害を持ったプレーヤーとともにボッチャ体験を親子で学ぶ。
城南公民館	手話講座や人権教育に関する講演やセミナーの実施。
植木公民館	希望者は10月に実施される「全国手話検定試験」4級または5級の受験を目指す初心者向けの手話講座を実施。

回答状況から、手話について学ぶ講座や障がいの理解、ボッチャ等スポーツ体験を実施している市町村が多い。障がいのあるなしに関わらず共に学んだり、活動したりする共生社会の実現に向けた講座が実施されていることがわかる。

問6 今年度実施した（または実施予定の）事業における工夫や取組について1つ御記入ください。

次は、記入のあった市町村の工夫や取組事例である。（回答があった市町村及び熊本市公民館のみを示す。）

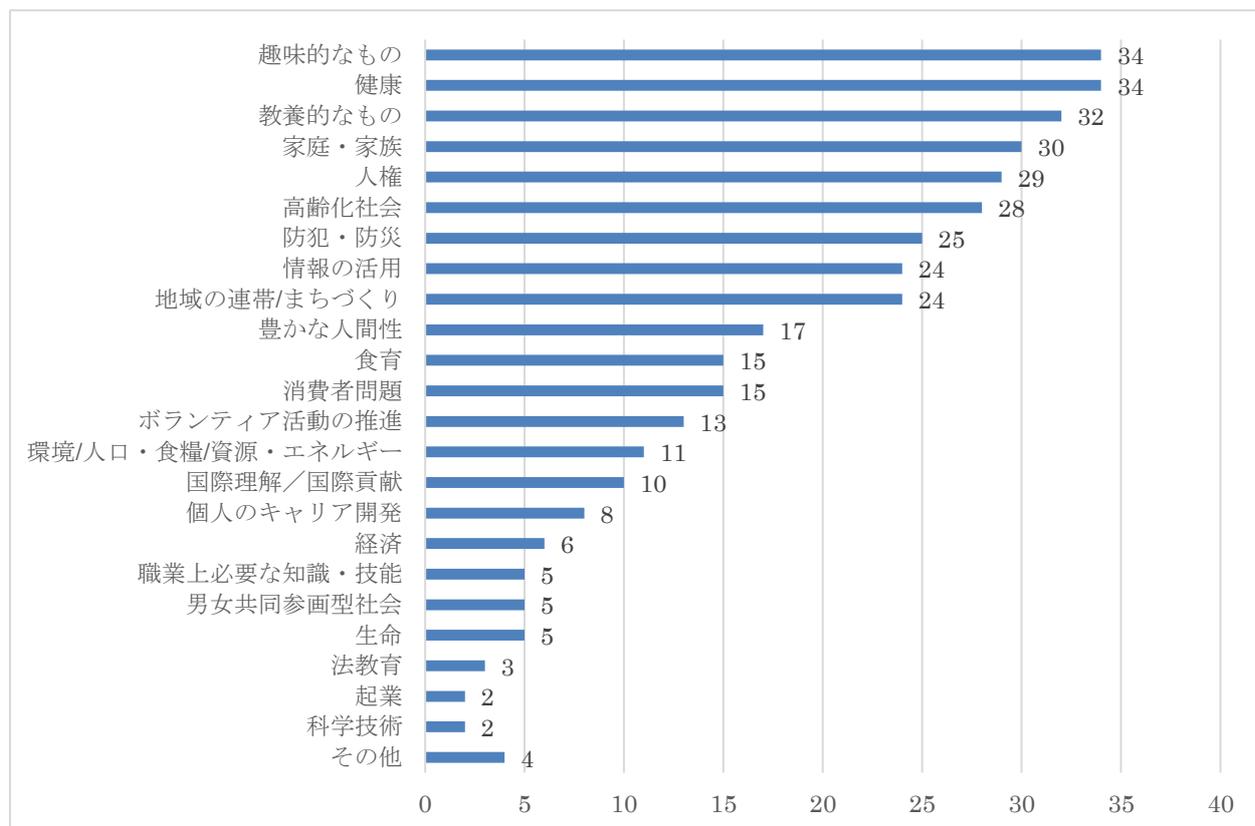
市町村等	工夫・取組
八代市	スマートフォンの普及状況やスマホ講座の需要を見て、初心者向けよりも少し高度な内容のスマホ講座を新規に開設。
人吉市	「デジタルデバイドの解消」をテーマに、スマホの操作に不慣れな方向けに、地元の高校ボランティア部の生徒を講師とし、短期講座「スマホの使い方教室」を開催。
水俣市	教養講座について、時間帯に応じて参加できるよう、平日の夜と土曜日の午前中に分けて開催。（公民館）
玉名市	大河ドラマの主人公（令和5年度で言えば紫式部）をテーマにした文学講座を開催。家庭内のコミュニケーションに的を絞った講座や、健康的な食習慣につなげるための食育や時短ご飯の講座なども開催。
天草市	読み聞かせボランティアの交流及びスキルアップを目的に読み聞かせボランティア講座を年4回程度実施。読み聞かせ初心者向け基礎講座受講生のうち3名が新たにボランティアグループを立ち上げ、市主催ボランティア派遣事業へも協力いただいている。
菊池市	デジタルデバイス解消に向けて、高校生が講師となってスマホの使い方を教えるシニア向けのスマホ講座を開講。
宇土市	各世代間の繋がりが希薄になってきている昨今、地域教育力活性化事業で、児童と幅広い年代の地域住民が触れ合うことができた。
上天草市	前年度に行ったアンケートで要望があった講座を今年度新たに取り入れたところ、当該講座については定員を上回る応募があった。
宇城市	デジタル社会に対応するため、初心者スマホ講座、パソコンの基礎講座を実施。初心者スマホ講座には、地元の高校生をサポートとして依頼した。
阿蘇市	パソコン関連講座の開設にあたり、国の補助金（国民のデジタルリテラシー向上事業）を利用。
合志市	TSMC関連で「外国人のための日本語講座」開催。
玉東町	高齢者eスポーツ講座の実施。
和水町	これまでの参加者からのアンケートを基に、ニーズの多い分野を継続し実施。
大津町	TSMCの進出で台湾をはじめとした海外文化の理解を深めるために、中国語講座、台湾発見、英国のうさぎのぬいぐるみ作成など国際交流を目的とした講座を開設。
南小国町	事前に高齢の方を対象にアンケートを取り、希望の多い項目を取り入れてスマホ講習会を実施。
小国町	地域の人づくり講座として「小国のたまり場プロジェクト」を実施。体験活動や郷土料理

	づくりなど、地域住民の要望でもある地域の人達が交流できる場として実施した。
産山村	各種講演等において、今までコロナ禍でオンラインで行っていたものの多くを対面形式に戻し、参加者の増加につながった。
高森町	高森町タブレット図書館を開設し、各公民館に設置。
嘉島町	学んだことを地域学校協働活動事業や読み聞かせ等のボランティアで活用。
益城町	スマホ教室の開催場所を1箇所固定せず、町内の施設各所で開催し、参加者の増加を図った。
甲佐町	従来は多くの人を集めて実施するものが多かったが、コロナ禍や参加者の高齢化を鑑み、自治公民館等で少人数開催のできる出前講座に力を入れた。
氷川町	コロナウイルス感染拡大防止対策として、Web講座を実施。
芦北町	高齢者向けに単発型のスマホ講座を開講。内容としては、スマートフォンの機能、LINEを中心に実施。
錦町	英検の受験対策で実施した錦未来塾は、受験者及び合格率が前年度をはるかに上回る成果となった。
湯前町	今年度、新規で開設した「生涯学習特別講座」では、他の生涯学習講座とは異なり、不定期で様々な講座を開催し、その都度受講者の募集を行った。他の講座と比べ、受講者数も多く、継続してほしいという声が多く上がった講座であった。(主な講座の内容は、樹木の剪定教室など)
山江村	コロナ禍の中で生じた課題を解決できるような講座を実施。
球磨村	新規講座の開設。
苓北町	地域の歴史への関心をさらに高めてもらうための歴史講演会を夜間に開催。地元講師及び受講者にとって参加しやすく好評である。
中央公民館	高校生のボランティアによる高齢者対象のスマホ教室を主催講座として実施。孫世代の高校生による指導は、受講者の琴線に触れるやり取りで学習の意欲も高まり、異世代間交流事業としても大いに成果を挙げた。
五福公民館	五福スマホ悩み教えあいサロンでは、スマホの悩みを持つ高齢者と五福担当校区内にあるボランティアの機会を求める第一高校生をつなぎ、世代間交流を行う場を設定した。目的は悩みの解決だが、日常的に話すことの少ない見知らぬ他世代の相手とのコミュニケーションを行うことで、相互理解が進み、思いやりやさしさに包まれたかわりが生まれていた。当初の悩みを解決するという目的以上のものをそれぞれ持ち帰っていただくことができた。
西部公民館	当公民館の管轄地域における歴史的なものを取り上げたいということで、「竹崎公園」の竹崎順子をきっかけにして、歴史講座を展開。新規に開設したものだが、地元につわる話ということで、より身近に誇らしく受講していただくことができた。
南部公民館	「スマホで始めよう！災害の備え」の講座では、スマホの操作基本的な方法を学ぶこと

	もできるのと同時に、災害についてのアプリや情報の検索方法なども学ぶことができた。
東部公民館 東部公民館	公民館にある避難所の道具を使い、防災食を作ったり、テントを設営したりして、1泊2日の防災キャンプを行い、防災意識の向上を図った。
龍田公民館	親子で陶芸作品を制作する学校の授業にはない講座の実施。
託麻公民館	シニアのためのスマホ初心者講座の実施。
幸田公民館	ベビーからのイングリッシュ（共生社会をめざして）、骨盤ヨガ教室（健康な社会をめざして）、親子ロボット教室（家庭教育学級）、スマートフォン講座（デジタルデバイド対策）の実施。
秋津公民館	社会のニーズに対応し、経験に応じて段階的に楽しむことができる小中学生を対象としたプログラミング体験講座を開催。リピーターも多い。
清水公民館	はじめての終活をテーマに講座を実施。
大江公民館	高校生ボランティアの方にスマホ操作や小学生の学習支援等に関わっていただくことにより、世代間交流が活発になり、ボランティア人材の育成にもつながった。
花園公民館	年間を通じて、4か月に1回の割合で公民館の避難所の役割について体験しながら学ぶ防災デイキャンプを実施。
北部公民館	ささえりあ北部と共催で月2回、年間を通して「健活教室」を実施。参加者の近くの会場でできるように5会場でZoom配信し、参加しやすい環境を整えた。
飽田公民館	人権や防災に関する講座について、おでかけ公民館や家庭教育学級として行い、参加者が少ないということがないようにした。
河内公民館	地域の自治会主催で「防災講演会」を実施。歌う防災士柳原さんの講話、西消防署河内出張所所長から地域に関する講話、地域の防災担当から地域の避難場所や避難計画についての講話を内容とした。
富合公民館	地域内に鎮座する木原不動尊（日本三大不動尊）において、住職の講話と不動経の写経体験を現地で実施。
城南公民館	世情のSDGsの取組として、割れたり破損したりした食器や皿等の修復として「金継ぎ」講座を開催。大切にされている物の復元・修復に積極的に取り組まれ、作品完成に大変喜ばれていた。
植木公民館	当時、国鉄職員として長崎市内で勤務されていた深堀弘泰さんの被爆体験を聴き、平和の尊さを学ぶおでかけ公民館講座を実施。語り部（講師）の工藤さんは、深堀さんと同じ長崎の被爆者で、自分の体験も交え、深堀さんの体験を「祖父が孫に語る」というストーリーの紙芝居で、平和の尊さを伝えられた。

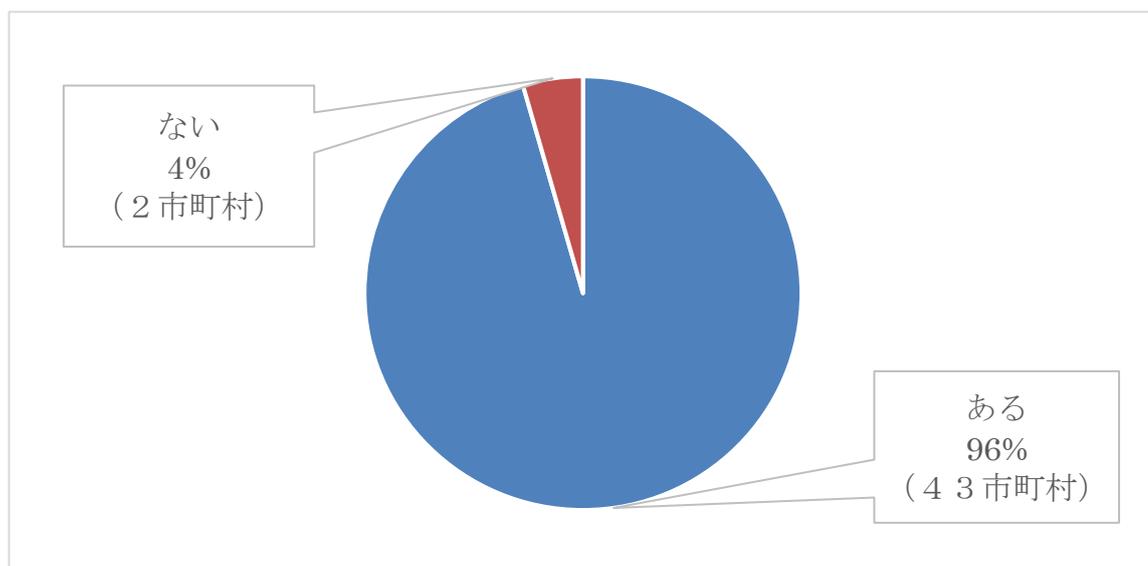
回答状況から、時代の変化やニーズに応じた講座内容（デジタルデバイドの解消や多文化共生）、受講生が参加しやすい開催方法、他部局や他団体との連携等、様々な工夫や取組を行っていることがわかる。

問7 住民への提供が必要だと考えられる学習についてご記入ください。[複数回答可]



「趣味的なもの」「健康」「教養的なもの」「家庭・家族」「人権」が上位となっている。昨年度同様、10近くの学習領域を複数回答した市町村が非常に多く見られた。地域課題に応じた様々な学習領域の講座の提供が必要だと感じていることがわかる。

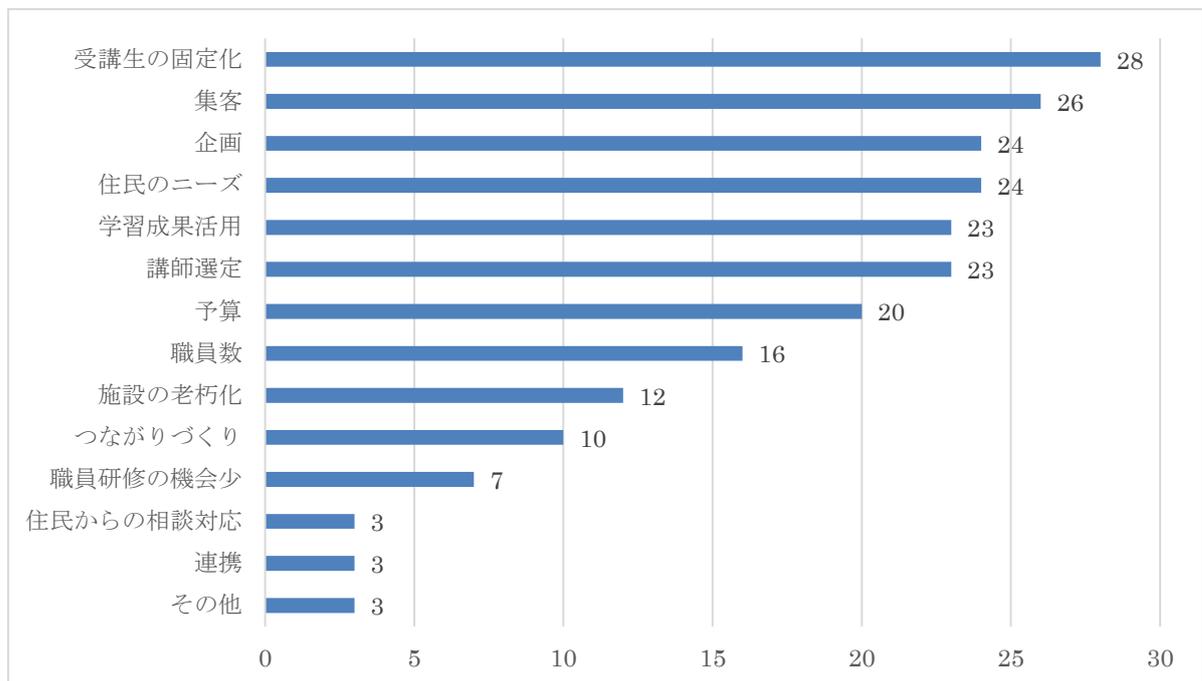
問8 生涯学習を行う上での課題や悩みはありますか。



多くの市町村が課題や悩みを持ちながら、よりよい学習機会の提供のために生涯学習を推進していることがわかる。

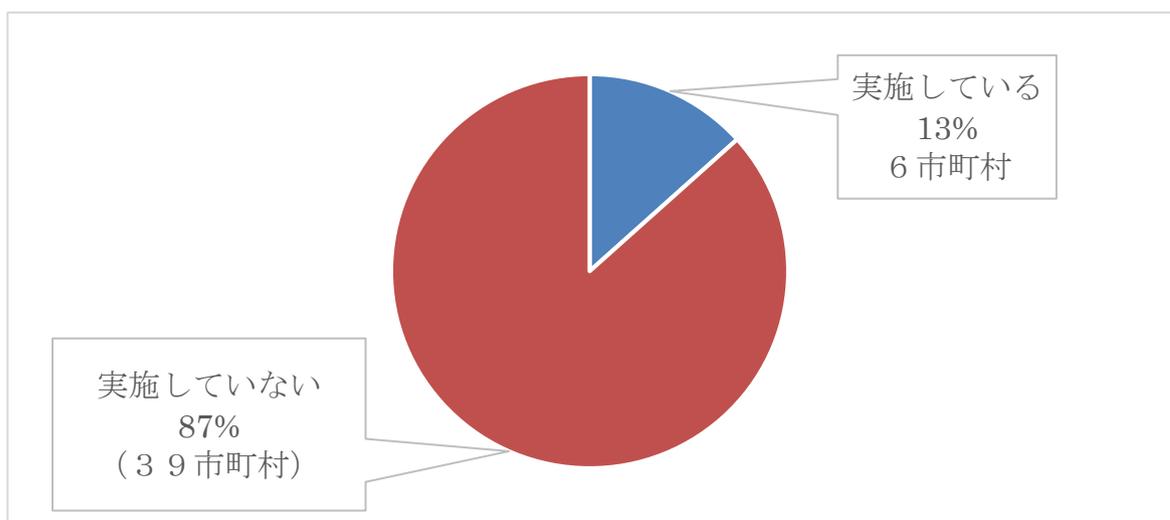
問9 問8で「ある」と答えた方にお聞きします。課題や悩みの内容を教えてください。

[複数回答可]



生涯学習を推進する上での課題や悩みとしては、「受講生の固定化」「集客」「企画」「住民のニーズ」「学習成果活用」「講師選定」が上位である。昨年度に比べ、「講師選定」、「集客」が3市町村減少している。その他としては、「インターネット環境の整備」や「講座の場所の確保」「他課の講座等との重なり」が挙げられている。

問10 社会教育指導員に対する研修を実施していますか。



社会教育指導員を対象とした研修を実施している市町村数は6市町村ある。年間1～10回実施しており、外部研修を活用して研修を行ったり、連絡会議等の機会を利用して研修を行ったりと、地域の実情に応じて実施している。

第3章 県と市町村の連携事業

1節「地域の人づくり講座」3年次経過報告

【事例1】公民館関係者等の人材育成を目的とした講座（天草市）

1 1年次の計画

地 域 課 題
<p>○講座開催内容において、幅広い世代に生涯学習の機会を提供する必要がある。</p> <p>○公民館講座の充実のため、さらに地域資源の活用や、各地区公民館との情報交換をする必要がある。</p>



事 業 目 標
<p>地域学校協働活動との連携及び地域資源（人・もの・コト）を生かした特色ある公民館事業を展開できる人材の育成を通じて、幅広い世代に学習の機会を提供する「まなぶ、つながる、いかす」公民館を目指す。</p>



講 座 企 画		
テーマ	<b>天草の学びの拠点 「まなぶ、つながる、いかす」公民館 ～地域の魅力を生かす！ 公民館と地域学校協働活動のつながり～</b>	
講座目標	<p>天草市の公民館が一体となって公民館事業を展開するために、目指す姿や方向性を共有するとともに、地域の強み（魅力・特色）を生かした取組及びそのために必要なスキルを学ぶ。</p>	
方法	<p>○受講対象者は、公民館関係者及び地域学校協働活動推進員等とする。</p> <p>○学習形態は、講義形式とワークショップ（参加体験型）を織り交ぜて行う。</p>	
回数	演題・内容	講師
1	演題	<p><b>天草の学びの場「まなぶ、つながる、いかす」公民館 ～地域の魅力を生かした 体験学習 in あまくさ～</b></p>
	内容	<p>天草市が目指す生涯学習の推進、公民館事業について共有し、一体となって事業を展開する機運を高める。</p>
2	演題	<p><b>子供たちの学びを支える 公民館講座 ～公民館と地域学校協働活動との連携～</b></p>
	内容	<p>公民館活動と地域学校協働活動の連携による公民館事業の事例と可能性について学ぶ。</p>
3	演題	<p><b>事例に学ぶ！世代をこえて創る公民館講座 ～地域の課題解決と未来への学びをつなぐ～</b></p>
	内容	<p>地域の課題解決と学校教育、まちづくりをつなぐ公民館講座の在り方について学ぶ。</p>
<div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 2px; width: fit-content;">                     新型コロナ ナ感染拡 大防止の ため中止                 </div>	<b>地域と学校をつなぐアイデア探し！ ～学びをつなぐ講座企画～</b>	
	<p>地域の課題やニーズ、地域資源を生かした次年度講座を企画する。</p>	
<div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 2px; width: fit-content;">                     新型コロナ ナ感染拡 大防止の ため中止                 </div>	<b>教えます！人が集まるチラシ作成 ～魅力的なチラシづくりのために～</b>	
	<p>チラシ及び公民館だよりの作成等、効果的な情報発信の方法について学ぶ。</p>	

2 2年次の計画

講座企画		
テーマ	天草の学びの拠点 「まなぶ、つながる、いかす」公民館【2年次】 ～地域の魅力を生かす！ 公民館と地域学校協働活動のつながり～	
講座目標	各学区で公民館と地域学校協働活動が連携し、地域の魅力・特色を生かした活動ができる取組を企画し、次年度の実践につなげる。	
方法	○学区ごとに地域資源（人・もの・コト）を生かした講座を企画する。 ○話し合い及び交流の時間を確保する。	
回数	演題・内容	講師
1	演題	公民館と地域学校協働活動をつなぐアイデア探し！ ～学びをつなぐ講座企画～  熊本市社会教育課 主幹  桑原 秀明
	内容	
2	演題	教えます！人が集まるチラシ作成 ～魅力的なチラシづくりのために～  株式会社 談 プランナー  甲斐 由貴
	内容	
3	演題	地域の魅力を生かした企画づくり① ～事例から学び、地域の魅力を再発見～  公民館と地域学校協働活動がつながった事例を学び、 各学区でアイデアを探す。  県統括アドバイザー 山平 敏夫
	内容	
4	演題	地域の魅力を生かした企画づくり② ～次年度の活動実施に向けて～  学校活動を共に支え合う活動を目指し、次年度の活動 につながるアイデアを互いに出し合いつなげていく。
	内容	

### 3 3年次の計画

講座企画		
テーマ	天草の学びの拠点 「まなぶ、つながる、いかす」公民館【3年次】 ～地域の魅力を生かす！ 公民館と地域学校協働活動のつながり～	
講座目標	各学区で公民館と地域学校協働活動が連携し、地域の魅力・特色を生かした活動を実践に移す。	
方法	○学区ごとに地域資源（人・もの・コト）を生かした講座を開催する。 ○公民館講座で学んだことを地域で生かす環境づくりの構築	
回数	演題・内容	講師
1	演題	元熊本市職員 松崎 昇
	内容	
2	演題	県統括アドバイザー 山平 敏夫
	内容	



3年間にわたる「地域の人づくり講座・天草教室」は終了したが、次年度以降も地域学校協働活動推進員を交えた研修や講座など、連携した取り組みを推進していく。各地区で出されたアイデアを出し合いながら、子どもたちや地域に貢献できるよう、公民館の役割を生かして互いの往還を増やし、風通しの良い環境づくりに努める。

## 4 3年目の講座の実際

### 【第1回】

大きな注目を浴びている人格者、大谷翔平選手の愛読書が「論語」ということにヒントを得て、企画されたものである。講師の松崎氏は、「人として何が大切なのか」を具体的なエピソードやユーモアを交えながら、分かりやすく説明された。長く読み継がれている「論語」から、私たちが軸に置きたい考え方、人育て（学び）のヒントをいただいた。語り継がれる価値や意義を、現代にも通じるメッセージとして受けとめた。

### 【第2回】

3年間のまとめとして、事前に各地区で取り組んだことや今後取り組みたいことなどをまとめた。講座の前半は、異なる地区の公民館職員と地域学校協働活動推進員でグループを編成し、学校と公民館の連携の様子や実践例について発表・交流した。後半は、各地区毎にグループを組み直し、「次年度取り組みたいこと」を協議し、行動宣言書を作成する活動を行った。他の公民館と地域学校協働活動の取組に学びながら、次年度に最優先したい具体的な活動を共通理解することができた。

## 5 3年目の成果と課題

### 【成果】

各地区の公民館と地域学校協働活動推進員がグループで交流、話し合いを進めることで、学校を中心としたまちづくりの実現に向けて、互いに共通認識をもつことができた。

公民館が進めたい活動、地域学校協働活動推進員が進めたい活動に対し、互いが協力できる体制を整えることができた。

### 【課題】

地域により実態に差があるように感じる。他地区の実践や取組の過程にアンテナを張り、それぞれの地域の特色や魅力を生かした活動につなげる必要がある。

## 6 今後の展開

今後はこれまでの学びを生かしながら、公民館と地域学校協働活動推進員が連携した活動を展開していくための、天草市の地域資源（人・もの・コト）を活かした「人づくり講座」を計画していく。



「論語」を分かりやすく解説する講師



論語を復唱しながら話を聞く受講生



次年度の取組について話し合う受講生



講師のまとめを聞く受講生

【事例2】地域学校協働活動推進員等の人材育成を目的とした講座（人吉・球磨10市町村）

1 1年次の計画

地 域 課 題
○地域学校協働活動を推進していくための人材が確保できていない。 ○各市町村の地域学校協働活動の取組等を共有し、管内で一体となって推進を図る必要がある。



事 業 目 標
「子供が輝くまち 人吉・球磨」を目指して、地域学校協働活動推進員及びボランティア人材の発掘、育成を通して、人吉・球磨地域が一体となって継続的・安定的な地域学校協働活動の推進を図る。



講 座 企 画			
テーマ	子供が輝くまち 人吉・球磨 ～地域の絆、まちとまちの連携を生かした地域学校協働活動～		
講座目標	地域学校協働活動の有用性や可能性を理解するとともに、地域学校協働活動推進員等に求められる知識や技能を学び、活動の実際に生かそうとする態度を養う。		
方法	○受講対象者は、地域学校協働活動推進員等及び学校支援関係者とする。 ○学習形態は、講義とワークショップ（参加体験型）を織り交ぜて行う。		
回数	演題・内容	講師	
1	第一部 演題	注目！地域学校協働活動の今！ ～学校と地域が学びの未来をつくる！～	県社会教育課 参事 桑原 秀明
	内容	地域学校協働活動の有用性や可能性、地域学校協働活動推進員の役割を学ぶ。	
	第二部 演題	推進員に求められていること ～私にできること みんなでできること！～	県統括アドバイザー 山平 敏夫
	内容	学校運営協議会との連携を含めた地域学校協働活動推進員の役割やCSの事例等を学ぶ。	
2	演題	地域学校協働活動が楽しくなるコツ！ ～心の距離を近づけるコミュニケーション術～	いけだマナーアカデミー 代表 池田 充子
	内容	学校、行政職員、ボランティア、子供や保護者等をつなぐコミュニケーションスキルや、様々な支援方法を学ぶ。	
3	演題	みんなの第一歩で 子供が輝くまちへ ～天草の3年間の歩みから～	天草市地域学校協働活動 統括コーディネーター 向 博俊
	内容	子供の姿や先進地事例の段階的な取組事例や地域一体として地域学校協働活動を推進する仕組みを学ぶ。	
4	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; width: fit-content;">                         新型コロナ                          ナ感染拡大                          防止のため                          中止                     </div>	地域学校協働活動を仮想体験！ ～「やってみたい」をカタチにする～	県統括アドバイザー 山平 敏夫
		やってみたい活動を参加者同士で考え、今後の実践のヒントにする。	

2 2年次の計画

講座企画		
テーマ	<p style="text-align: center;"><b>子供が輝くまち 人吉・球磨 【2年次】</b>  <b>～地域の絆 まちとまちの連携を生かした地域学校協働活動～</b></p>	
講座目標	<p>地域学校協働活動のより一層の推進に向け、推進員等の資質向上研修及び人材拡充を図るとともに、CS と地域学校協働活動の一体的な推進モデルを考える。</p>	
方法	<p>○受講対象者は、地域学校協働活動推進員等及び学校支援関係者とする。          ○学習形態は、講義とワークショップ（参加体験型）を織り交ぜて行う。</p>	
回数	演題・内容	講師
1	演題	<p style="text-align: center;"><b>地域と学校をつなぐプログラム</b></p> <p style="text-align: right;">内閣府地域活性化伝道師 三角 幸三</p>
	内容	
2	演題	<p style="text-align: center;"><b>地域学校協働活動の連携マネジメント</b></p> <p style="text-align: right;">内閣府地域活性化伝道師 三角 幸三</p>
	内容	
3	演題	<p style="text-align: center;"><b>地域学校協働活動悩みの相談室</b></p> <p style="text-align: right;">内閣府地域活性化伝道師 三角 幸三</p> <p style="text-align: right;">県統括アドバイザー 山平 敏夫</p>
	内容	
4	演題	<p style="text-align: center;"><b>地域学校協働活動の企画創造</b></p> <p style="text-align: right;">内閣府地域活性化伝道師 三角 幸三</p> <p style="text-align: right;">県社会教育課 主幹 桑原 秀明</p>
	内容	

3 3年次の計画

講座企画		
テーマ	<b>子供が輝くまち 人吉・球磨</b> <b>～地域の絆 まちとまちの連携を生かした地域学校協働活動～</b>	
講座目標	地域学校協働活動の認知度を向上させ、さらなる地域学校協働活動推進員及びボランティア人材の発掘、育成を通して、人吉球磨地域が一体となって継続的・安定的な地域学校協働活動の推進につなげる。	
方法	人吉球磨一体となった推進に向け、受講者の横のつながりづくりを重視した講義や現地学習、ワークショップ形式の研修	
回数	演題・内容	講師
1	演題	地域学校協働活動事例紹介 ～子供たちの成長を支え、地域を元気にする活動～  人吉市 地域学校協働活動推進員
	内容	
	演題	地域と学校をつなぐアイデア探し！ ～学びをつなぐ講座企画～  熊本県社会教育課 社会教育主事 山下 正晃
	内容	
2	演題	令和5年度 学校支援ボランティアの集い 「われら人よし 生き域 学校応援団」  人吉市地域学校協働本部
	内容	
3	演題	地域の魅力を生かした企画づくり ～次年度の活動実施に向けて～  県統括アドバイザー 山平 敏夫
	内容	



3年間の成果と課題を踏まえ、球磨郡市10市町村で課題の共有、情報交換を継続し、広域連携を視野に入れた、郡市一体となった地域学校協働活動の推進に向けて取り組んでいく。

## 4 3年目の講座の実際

### 【第1回】

講座の前半は、地域学校協働活動の仕組みや学校支援活動を支援領域ごとに人吉市の事例を交えて、学びの振り返りを行った。受講生からは、「実際の活動紹介で分かりやすく理解ができた。」「活動に生かせることが多く、今後の運営を見直した。」という感想が聞かれた。

後半は、「学びをつなぐこと」「学びでつながること」について、事例を交えて学びを深めた。地域資源と地域課題を考えることで地域と学校がつながり、夢を育む「地域づくり」や「人づくり」につながっていくイメージを共有し、受講生の意欲向上につながった。

### 【第2回】

人吉市で開催した「学校支援ボランティアの集い」（学校支援ボランティア・教職員・教育関係者及び地域学校協働本部事業の賛同者が一堂に集まり、活動の喜びや課題を語り合い、学校支援ボランティア間や教職員との理解や親睦を深めるイベント）に参加し、取組事例や地域と学校が一体となって事業を推進する仕組みについて学んだ。

### 【第3回】

次年度の活動実施に向けて、地域の魅力を生かした企画づくりについて学んだ。「ストーリー性のある地域学校協働活動」について理解した後、各グループで防災や環境、福祉などをテーマに企画づくりを行った。今ある活動にもストーリー性を持たせることで、地域と学校の双方向にメリットが生まれる活動にブラッシュアップすることができ、今後の活動を企画する際に活用できる学びとなった。

## 5 3年目の成果と課題

### 【成果】

本講座は地域学校協働活動を推進していくための人材発掘・育成および本事業の認知度を向上させるため、これまでの学びの振り返りから始めた。このことにより、地域学校協働活動の具体的な事例等の情報共有ができ、新たな活動の企画づくりや活動を見直していく契機となった。

### 【課題】

地域学校協働活動の実績は増加傾向にあるが、その認知度については、まだまだ低い状況である。人口が少ない町村においては、本活動に参画できる人材が乏しく、各学校間における取組状況にも温度差がある。これらの課題を解決させるためには、市町村の枠を超えた連携が必要と考える。

## 6 今後の展開

今後も引き続き、球磨郡市10市町村で課題の共有、情報交換を行い、他の地域及び学校における先進事例や研修会等を通して学びを深め、広域連携を視野に入れ、郡市一体となった地域学校協働活動の推進に向けて取り組んでいく。



第2部講演の様子



質問する受講生



実践発表の様子



交流懇談会での受講生



具体的な活動を考える受講生



考えた活動を発表する受講生

### 第3章 県と市町村の連携事業

#### 2節「地域の人づくり講座」2年次経過報告

#### 【事例3】地域学校協働活動の人材育成を目的とした講座（合志市）

##### 1 1年次の計画

地 域 課 題
<p>○地域住民による学校支援活動、児童生徒による地域行事への参加や伝統芸能伝承、祭りや運動会をとおした交流などが行われているが、学校間や地域間で取組に差がある。</p> <p>○地域と学校をつなぐ役割を担う地域学校協働活動推進員の中には、学校や地域での認知度の低さに悩んでいる方もいる。</p>



事 業 目 標
<p>学校と地域をつなぐ地域学校協働活動推進員や担当職員の育成を図り、本市教育委員会の最終目標である「子どもたちが合志市に愛着と誇りを持ち、地域に貢献したいと考える人材を育てる」ことにつなげる。</p>



講 座 企 画		
テーマ	<b>合志市に愛着と誇りをもつ 未来の人材を育てよう ～みんなで進める わがまちの地域学校協働活動～</b>	
講座目標	近隣校区の地域学校協働活動推進員や学校関係者が集まり、地域学校協働活動の基礎講座と県内モデル地域の実践例から、課題解決のヒントを得る。	
方法	○受講対象者は、地域学校協働活動推進員、学校管理職、地域連携協働担当職員等とし、講義形式とワークショップ（参加体験型）を織り交ぜて行う。	
回数	演題・内容	講師
1	演題	合志市における地域学校協働活動の推進に向けて （西合志校区）
	内容	地域学校協働活動を推進する上での悩みや課題について情報交換し、その解決方法について県内モデル地域の事例から学ぶ。
		氷川町教育委員会 統括的な地域学校協働活動推進員 古閑 由美 氷川町教育委員会 学校教育課審議員兼指導主事 平田 裕子 県統括アドバイザー 山平 敏夫
2	演題	合志市における地域学校協働活動の推進に向けて （合志校区）
	内容	地域学校協働活動を推進する上での悩みや課題について情報交換し、その解決方法について県内モデル地域の事例から学ぶ。
		天草市地域学校協働活動 統括コーディネーター 向 博俊 県社会教育課 主幹 桑原 秀明

2 2年次の計画

講座企画		
テーマ	合志市に愛着と誇りをもつ 未来の人材を育てよう【2年次】 ～みんなで進める わがまちの地域学校協働活動～	
講座目標	近隣校区の地域学校協働活動推進員や学校関係者が集まり、地域学校協働活動の広報活動の技術を習得し、地域へ発信する。	
方法	○参加者が主体的に参加できるワークショップを取り入れる。 ○中学校区ごとに作品を作成し発表会を開催する。	
回数	演題・内容	講師
1	演題	合志マンガミュージアム 職員 安在 渉
	内容	
2	演題	
	内容	
3	演題	
	内容	



2年次の成果と課題を踏まえ、3年目は地域学校協働活動推進員のスキルアップや周知・連携のための講座等を計画し、合志市全体での活動促進を目指す。

### 3 2年目の講座の実際

#### 【第1回】

地域学校協働活動の認知度を上げることを目的に、啓発のためのチラシ作り講座を行った。その際、専門的知識とスキルをもつ地元の方を講師としてお招きすることができた。講師からデザインの基礎に関する丁寧な説明とともに、具体的なチラシ例をもとにした受講生同士の意見交流の場もあり、意欲的に学ぶことができた。

#### 【第2回】

前回の学びをもとに、チラシに載せる情報の精選、文字の配置、フォントや色の工夫など、より実践に活かすための内容について講師からアドバイスがあった。参加者からは「技法をいろいろ教えていただいたので、今後の広報活動に役立たせたい」「地域への情報発信に役立つ」との感想が聞かれた。

#### 【第3回】

中学校区毎のグループになり、パワーポイントを使ってチラシ・ポスターの作成を行った。言葉や文字、色使い等について話し合いながら、和やかに活動が進められた。最後にお互いの作品発表し、学びや成果を共有することができた。

### 4 2年目の成果と課題

#### 【成果】

地域への周知・啓発のためのチラシを全校区で作成することができた。また、アンケートの回答に「推進員の方と一緒に受講できたことが有意義でした」とあったように、地域学校協働活動推進員と学校職員が目的を共有し、共に活動すること自体もお互いにとってよい機会となった。

#### 【課題】

回によって、参加者の所属に偏りが見られた。参加しやすい日程や事前周知の工夫が必要であった。また、「地域と学校をさらにより良い関係にしていきたい」という声がある一方で、「推進員さんの育成をもっとするべき」という声もあり、双方にとってWIN-WINとなる活動につながるよう講座を組み立てていく必要がある。

### 5 3年目以降の展開

より多くの方々との連携・協働を視野に入れながら、活動の啓発、関係者の理解促進やスキルアップにつながるような講座を計画する。



チラシデザインについて学ぶ受講生



講師からのアドバイスを聞く受講生



校区毎にチラシを作成する受講生

大鼓の指導 田植えのお手伝い 昔遊びと一緒に

## 地域学校協働活動 ボランティア募集

調理実習のお手伝い 地域のボランティア 絵本の読み聞かせ

ボランティア  
【学習支援活動】  
読書の読み会、地域学習、そばさん、習字、校外学習の引率、プリントの受け付け、本の読み聞かせ等  
【地域支援】  
花壇の整理、樹木の選定、落ち葉掃除等

学校が 地域を元気にする!  
地域が 学校を元気にする!  
あなたの力を是非お貸しください!

連絡先 - 興味のある方は各校に連絡してください -  
立西会志中学校 096-242-0100  
立西会志中央小学校 096-242-0102  
立西会志第一小学校 096-242-0103  
各学校の地域連携担当または教頭まで連絡してください。

完成したチラシ

【事例4】生涯学習・生きがいづくりの場としての「たまり場」づくりを目的とした講座（小国町）

1 1年次の計画

地 域 課 題
○地域の活性化を目的とした、地域の人材発掘及び人材活用が不十分である。 ○公民館をつどいの場とするコミュニティの形成が必要である。



事 業 目 標
全世代の地域住民が気軽に集える、生涯学習・生きがいづくりの場としての「たまり場」づくりを目指し、将来的には地域の人材発掘・人材活用のベースとなる場として地域活性化につなげる。



講 座 企 画		
テーマ	<b>小国のたまり場プロジェクト</b> ～「いつでも、だれでも、とりあえず楽しい」場所づくり～	
講座目標	誰でも気軽に集い、創作活動、情報交換、相談、健康づくりなど、様々な活動が自由に行えるたまり場づくりを目指す。	
方法	○地域の資源を生かした講座を行う。（坂本善三美術館・小国杉端材等） ○つながりづくりとイメージづくりのため、実践活動を多く取り入れる。	
回数	演題・内容	講師
1	演題	<b>「人生＝表現」</b> ～自分の楽しみを大事に生きる～
	内容	「Over 50で楽しむ善三展」を鑑賞し、自分の生活の中で楽しみを見出しながら豊かに人生を送っている人々について知る。
2	演題	<b>小国のたまり場プロジェクト</b> ～たまり場でやりたいことを考える～
	内容	「いつでも、だれでも、とりあえず楽しい」たまり場づくりを目指し、イメージや活動内容等についてアイデアを出し合う。
3	演題	<b>とりあえず楽しいものづくり①</b> ～端切れを使った裂き織づくり～
	内容	不要なものを再生し、新しい価値を生み出す「裂き織」を体験し、たまり場で楽しく活動する意欲を高める。
4	演題	<b>とりあえず楽しいものづくり②</b> ～地域の端材を使った積み木づくり～
	内容	地域の資源である木材の端材を利用再生する「積み木づくり」を体験し、たまり場で楽しく活動する意欲を高める。
5	演題	<b>小国のたまり場プロジェクト</b> ～持続可能な活動に向けて～
	内容	持続可能な活動にしていくために、今後の計画や活動内容等について考える。
		小国町教育委員会 坂本善三美術館 学芸員 山下 弘子
		内閣府地域活性化伝道師 三角 幸三
		染織作家 増野 奈古
		かける木工舎 當房 こず枝
		美術家・地域学校協働活動 推進員 坂崎 隆一

## 2 2年次の計画

講座企画		
テーマ	小国のたまり場プロジェクト ～「いつでも、だれでも、とりあえず楽しい」場所づくり～	
講座目標	誰でも気軽に集い、創作活動、情報交換、相談、健康づくりなど、様々な活動が自由に行えるたまり場づくりを目指す。	
方法	○地域の資源を生かした講座を行う。(裂き織・小国杉端材・郷土料理等) ○つながりづくりや仲間づくり、たまり場のイメージづくりのため、実践活動を多く行う。	
回数	演題・内容	講師
1	演題	染織作家 増野 奈古
	内容	
2	演題	かける木工舎 當房 こそ枝
	内容	
3	演題	美術家・地域学校協働活動 推進員 坂崎 隆一
	内容	
4	演題	坂本善三美術館学芸員 山下 弘子
	内容	
5	演題	小国町町民課・栄養士 佐藤 久美子
	内容	



2年次の成果と課題を踏まえ、3年次は継続的かつ自主的なたまり場運営に取り組む。  
また、たまり場の認知度をさらに高め、関わる人を増やしていく。

### 3 2年目の講座の実際

#### 【第1回】

たまり場での活動を想定して、不要な布の端切れを使った「裂き織づくり」を行った。熱心にもものづくりに取り組むとともに、参加者同士の会話も弾み、実際のたまり場での活動をイメージすることができた。



織機を使った「裂き織づくり」を楽しむ受講生

#### 【第2回】

たまり場での活動を想定して、木材の端材を使った「積み木づくり」を行った。楽しみながら活動を行うとともに、地元の小国杉の端材を使用したたまり場ブランドの商品化への意欲も高まった。



夢中になって「積み木づくり」に取り組む受講生

#### 【第3回】

自主的かつ継続的なたまり場づくりを目指し、先進事例や地域の実態を踏まえ、民間の助成に応募するための構想を練った。必要なこと、もの、運営の展望など、様々なアイデアが出され、それぞれの思いを申請書の原案として作成することができた。

#### 【第4回】

民間の助成に応募するための申請書づくりを行った。たまり場づくりのイメージを共通理解し、代表者や組織、計画等について調整を行った。助成金の用途についても案をもとに検討し、申請書の内容が決定した。



助成応募のため申請書を検討する受講生

#### 【第5回】

たまり場における活動を想定して「減塩についての学習」と「郷土料理づくり」を行った。ともに学ぶ楽しさ、作る楽しさ、食べる楽しさと終始笑顔があふれる活動となった。調理中には、地域の小学生が興味深げに寄ってくるなど、たまり場としてのイメージを具体的にとらえることができた。



協力して「郷土料理づくり」に取り組む受講生

### 4 2年目の成果と課題

#### 【成果】

今回の講座で、地域の「たまり場」のイメージを明確に持つことができた。また、助成のための申請書の作成とおして、具体的な計画や運営について定めることができた。

「たまり場」には地域の人々が集い、楽しみ、つながるという機能が期待されるほか、学校教育や生涯学習とのつながりも期待される存在であることにも認識を持つことができた。

#### 【課題】

各講座ともに想定よりも参加者が少なく、固定化が見られた。町民への周知方法等について検討を図ることが必要である。アンケート結果では、今後もたまり場での活動を続けたいという声がとても多いため、今後、継続と自主的な運営につなげていくために、たまり場に関わる人を増やしていく必要がある。

### 5 3年目以降の展開

次年度は、継続的かつ自主的にたまり場が運営できるような活動に取り組む。また、たまり場の認知度をさらに高め、たまり場に関わる人を増やしていく。

第3章 県と市町村の連携事業

3節「地域の人づくり講座」1年次経過報告

【事例5】山村留学を核とした、地域人材の発掘、育成を目的とした講座（産山村）

1 1年次の計画

地 域 課 題
<p>○地域には様々な知識や技術を持つ人材はいるが、まだまだ多くの方が埋もれている状況である。</p> <p>○地域の人材に講師として活躍してもらいたい。</p>



事 業 目 標
<p>山村留学を核として、自然活動や農業体験等について子どもたちに指導等ができる人材の発掘、育成を通して、産山の自然や産業等の魅力を伝え、産山村が一体となって移住定住の促進につなげる。</p>



講 座 企 画		
テーマ	<b>地域の魅力 再発見！産山プロジェクト</b> <b>～人・もの・地域のコミュニティづくり～</b>	
講座目標	山村留学を核とし、地域人材の発掘、育成を通して、産山の自然や産業等の魅力を伝え、産山村が一体となって移住定住の促進につなげる。	
方法	関係団体のつながりづくりを重視した講義やワークショップ形式の研修	
回数	演題・内容	講師
1	演題	一般財団法人 「星のふるさと」 専務理事 井上 茂美
	内容	
2	演題	内閣府地域活性化伝道師 三角 幸三
	内容	
3	演題	内閣府地域活性化伝道師 三角 幸三
	内容	



<p>1年次の成果と課題を踏まえ、2年目は地域住民を主とした講座を開催し、同時に山村留学についての具体的な内容を取り入れ、展開していく。また、講座への参加を促すために周知方法等の工夫に取り組んでいく。</p>
--

## 2 1年目の講座の実際

### 【第1回】

第1回は、一般社団法人「星のふるさと」専務理事の井上茂美氏を講師に招き、自然体験活動の意義や山村留学を通じた地域の活性化について学んだ。山村留学先進地に係る講話を聞くことにより、今後の産山村における山村留学を通じた移住、定住に係る課題等を参加者と共有できたうえ、地域住民の生の声を聞くことができたことで、今後の展開の参考とすることができた。

### 【第2回】

アイスブレイクや地域の魅力についての語り合いを通じた仲間づくりを目的として講座を行った。山村留学を核とした移住、定住の促進について仲間づくりの素地を作ることで、参加者が共通の課題等を共有し、課題解決に向けて取り組むための方向性を確認することができた。

### 【第3回】

前回の講座を基に、山村留学における具体的な課題等をグループで協議し、共通の認識を図ることができた。講演では変化の早い昨今の環境でチャンスを逃さないために重要な手法である「OODAループ」について学んだ。その後、グループ協議では、「山村留学計画」をテーマに意見を出し合い、受講生から「未来を語る対話ができ楽しかった。」という感想が聞かれた。



講演を聞く受講生



講師の講演の様子



グループ協議で話し合う受講生



アイスブレイクを体験する受講生



考えた意見を発表する受講生

## 3 1年目の成果と課題

### 【成果】

講座を通して山村留学についての知識、今後の事業実施における課題等を参加者同士で共有することができ、今後の展開の参考とすることができた。

### 【課題】

講座の参加者について、決して多い人数とは言えないため、地域全体の機運醸成をはかるためにも、講座に関心を持っていただくため、内容、周知方法等改めて検討していかなければならない。

## 4 2年目以降の展開

山村留学事業については、令和7年度の本格的な実施を目標に準備を進めている。今年度は、今後山村留学事業に関わってくる関係団体を中心とした講座がメインとなったが、次年度、事業実施に向けた具体的な準備を進めていくにあたって、村をあげた取組として地域住民の理解、また地域からの指導、助言等がさらに必要となってくる。そのために、より多様な地域住民を対象とした講座を開催し、同時に山村留学についての具体的な内容を取り入れ展開していきたい。また、講座への参加を促すために周知方法等、地域住民に興味関心を持っていただくよう工夫をこらす必要がある。

【事例6】地域人材の育成・活用による公民館講座の実施を目的とした講座（和水町）

1 1年次の計画

地 域 課 題
<p>○地域学校協働活動の分野で、本の読み聞かせなどの地域活動を行うボランティア人材の育成や新たな人材の発掘不十分である。</p> <p>○公民館自主講座の企画・立案を推進する仕組みづくりが必要である。</p>



事 業 目 標
<p>若い世代だけでなく、子育てや仕事を終えて、自分の時間を持てる、リタイヤ世代の方々に「子育て世代のサポーター的役割」を担っていただけるような取組に繋げる。</p>



講 座 企 画		
テーマ	<b>みんなが子育てサポーター！</b> <b>～楽しい図書室と居場所づくり～</b>	
講座目標	地域人材の育成・活用による公民館講座の実施を目指し、1年目は、本の読み聞かせを行うボランティア人材の育成を行う。また、地域住民への本講座の周知を図る。	
方法	受講対象者を子育て世代やリタイヤ世代と幅広く設定し、講義形式とワークショップ、体験活動を取り混ぜて行う。	
回数	演題・内容	講師
1	演題	くまもと県民カレッジ認定講師 永塩 和佳
	内容	
2	演題	くまもと県民カレッジ認定講師 永塩 和佳
	内容	
	内容	



<p>参加者アンケートをもとに、次年度への展開を検討する。また、参加者リストをもとに、更なる地域人材の発掘を推進する。</p>
---

## 2 1年目の講座の実際

### 【第1回】

絵本のもつ価値や役割について、講師の豊富な経験をもとに話を聞くことから、読み聞かせ活動の意義についてあらためて考える機会となった。また、読み聞かせのノウハウについて具体的に学ぶことができ、今後の活動への自信につなげることができた。受講者からは多くの質問も寄せられ、熱心に学ぶ姿が見られた。

### 【第2回】

3月実施予定



## 3 1年目の成果と課題

### 【成果】

今回の講座で、すでに学校等における読み聞かせ活動に取り組んでいる方や関心を持っている方の更なる意欲の高揚や技能の向上につなげることができた。今後、さらに自信をもって活動に臨まれることが期待される。また、同じ思いをもった人々が受講生として集ったことにより、横のつながりづくりにもつながった。



### 【課題】

今回の学びを活用できる場、活躍の機会を計画的に設定する必要がある。また、さらに地域人材の掘り起こしを行うために、本講座の周知について工夫する必要がある。

## 4 2年目以降の展開

次年度は、講座のバリエーションを広げ、ボランティア養成講座の更なる充実を図る。また、図書室の空間づくりや子供の居場所づくり、ボランティアの活性化等をテーマに、地域人材の活用へ向けたワークショップを行う。他機関、他分野との連携を深め、この取組を必要としている人々を繋ぐ活動にしていく。

## 第4章 学習機会提供事業

### 【くまもと県民カレッジ主催講座①】

コース名	新しい旅コース
テーマ	人生を広げる「旅」をしよう ～新しい旅のカタチと価値～
背景	コロナ禍で途絶えていた旅行の機会が、ウィズコロナの動きとともに復活する兆しがある。観光だけではない新しい旅の楽しみ方が注目されている。
ねらい	旅行という非日常的な楽しみの中で、健康増進活動やボランティア活動を取り入れ、旅をきっかけとして、豊かな日常生活を送れるようにする。

回	演題	講師	日時
1	旅の「これまで」と「これから」 ～人生における旅とは～	尚綱大学 教授 柳田 紀代子	水曜 19:00～ 20:30
2	ようこそくまもと観光立県推進計画 ～県が取り組む観光施策～	熊本県観光企画課 主幹 富永由美子・田中麻美子	
3	旅で健康に！ヘルスツーリズム ～阿蘇くじゅう国立公園菊池渓谷～	一般社団法人菊池観光協会 事務局長 大竹 寛明	
4	旅先があなたの特別な場所に ～「農業のお手伝い×旅」でつながる御縁～	公益社団法人熊本県観光連盟 海外誘致部長 山倉 隆裕	
5	くまもとを楽しむ「わたしの〇〇旅」 ～マイプラン(自分の計画)の作成～		

#### <成果>

○講師が YouTube や HP 等の視覚に訴える資料を準備されたので、内容をより理解することができ、受講者からは「行ってみたい」等の声が聞かれた。

○旅の計画に便利なツールやアイテム等、今後に役立つ内容を紹介いただき、受講者の方も十分満足した様子だった。



#### ☆実施上のポイント☆

##### ○提案型の講座を企画

これまでの旅のイメージである「観光」「個人の楽しみ」という側面だけでなく、「健康増進」や「地域との交流」といった新しい価値を加え、新しい旅の形について提案する。

【くまもと県民カレッジ主催講座②】

コース名	熊本学（祭り）コース
テーマ	地域に根ざしたふるさとの祭り ～無病息災を願う人々の思い～
背景	県内各地で受け継がれている祭りの起源や歴史等について、深く知られていない現状がある。
ねらい	県内に古くから伝わる祭りの起源や歴史について学び、地域の祭りに込められた人々の思いや願いを知る。

回	演題	講師	日時
1	上津深江八坂神社裸祭り（苓北町） ～朱塗りの御輿が大寒の海を渡る～	苓北町観光ボランティアガイド協会 会長 神崎 雄史郎	金曜 10:00～ 11:30
2	坂下阿蘇神社夏越祭（南関町） ～起源は「難を逃れるよう」と願う「難越し祭」～	南関町教育委員会教育課 文化財係主査 遠山 宏	
3	八代神社氷室祭（八代市） ～夏場の無病息災を祈願 縁起物「雪餅」～	八代神社 宮司 小林 雄彦	
4	犬子ひょうたん祇園祭（山鹿市） ～疫病から救った子犬の神様を称える祭り～	大宮神社 禰宜 杉谷 健文	
5	佐野山王祭礼（宇土市） ～「ホーライ、ホーライ」甘酒祭り～	宇土市教育委員会文化課 係長（学芸員）藤本 貴仁	

＜成果＞

- 祭りを中心にしながら、それぞれの地域の歴史についても具体的に学ぶことができ、受講者も興味深く話を聞いていた。
- 講座の中に創作活動を入れたことで、受講者も楽しみながら、祭りに親しみを持つことができた。



☆実施上のポイント☆

- 講座の雰囲気やイメージを共有できる工夫  
祭りの雰囲気やイメージを受講者に届けられるよう、写真や動画を多く使用する他、創作活動を取り入れる等の講座を構成する。



【くまもと県民カレッジ主催講座③】

コース名	一人暮らしコース
テーマ	一人で暮らすあなたを支えたい ～今より「安全」で「自分らしい生活」へ～
背景	少子高齢化、核家族化、人口の流出等の社会変化に伴い、高齢者の単身世帯が増加している。
ねらい	高齢者の単身世帯の暮らしを安全で快適なものにするために、日常生活で意識しておきたいことや身につけておきたいスキルについて学ぶ。

回	演題	講師	日時
1	超高齢社会における生活環境の変化と現状 ～データから見る暮らし方の今と昔～	熊本保健科学大学 看護学科長 多久島 寛孝	木曜 14:00～ 15:30
2	一人暮らしに潜む危険と防災 ～「備え、判断、行動」ができる自分に～	特定非営利活動法人ソナエトコ 理事長 水野 直樹	
3	「電話で『お金』詐欺」の現状と対策 ～騙されないとと思っている人こそ、気を付けて！～	熊本県警察本部生活安全企画課 巡査長 片田 香保里	
4	やっぱり大切！一人暮らしのお金の話 ～家計管理と節約術～	熊本県金融広報委員会 金融広報アドバイザー 広瀬 美貴子	
5	相手を思うこと＝自分の幸せ ～つながりをつくるコミュニケーション術～	九州ルーテル学院大学 教授 永野 典詞	

<成果>

- 高齢者の単身世帯が増える中、防災、防犯への対処法や家計管理に関する内容は、ニーズが高く、受講生からも多くの質問が上がるなど、熱心に学ぶ姿が見られた。
- 人と繋がることで安心、安全を得ることができることをまとめとし、各自、自分の生活を振り返る機会を持つことができた。



☆実施上のポイント☆

- 自分事としてとらえるために振り返りの機会を設定  
学びを生活に活かすには、自分を客観的に振り替えることが必要となる。適宜、交流やワークショップ等の時間を設け、自分の現状や思い、考えを交換し合う場を設定する。



【くまもと県民カレッジ主催講座④】

コース名	メタバースコース
テーマ	メタバース（仮想空間）に秘められた可能性 ～インターネット上のもう一つの世界～
背景	近年、ビジネスやエンターテインメントの分野で活用されているメタバース（仮想空間）について関心が高まっている。
ねらい	現在のメタバースを活用したビジネス等の事例を学ぶとともに、私達の生活にもたらす変化や今後の可能性について学ぶ機会とする。

回	演題	講師	日時
1	メタバースの誕生 ～始まりはSF小説～	熊本学園大学 名誉教授 境章	月曜 14:00～ 15:30
2	メタバースを体験しよう！① ～インターネット上のもう一人の私～	アビリティスクール・マリオネット 代表取締役 村上 奈美	
3	メタバースを体験しよう！② ～教育やまちづくりにも活用～	熊本学園大学 名誉教授 境章 熊本学園大学経済学部4年 藤岡 大貴	
4	メタバースの未来 ～映画の世界が現実に！？～	株式会社 QoQ 代表取締役 古田 貴彦	
5	私たちの生活とメタバース ～経済効果とともに考える～	熊本学園大学 名誉教授 境章	

<成果>

- メタバースという新しい概念について、実際にスマートフォンやGoogleを使って体験的に学ぶことができた。
- メタバースを用いた新たなまちづくりの実際やデジタルコンテンツの保護の仕組みなど幅広く学ぶことができた。



☆実施上のポイント☆

○体験や活動を取り入れて

科学技術や情報社会など、新たな概念に触れる場合には、五感を通じた体験的活動が大切である。また、受講生の理解の状況を確認するためにも、適宜、受講生が話す活動（アウトプットの場面）を設けるようにする。



## 大分県教育委員会

### 「生涯を通じた障がい者の学び支援事業」



#### ～共生社会の実現に向けた、障がい者の生涯学習支援～

- 効果① <障がいのある方>生涯にわたる学びの場があることにより、自立して健康的な社会生活を営むために必要な力の維持・開発・伸長を図ることができる。
- 効果② <家庭・地域>障がいの有無に関わらず共に学ぶ体験を通して、お互いの理解を図り、多様性を認め合うつながりづくりができる。
- 効果③ <運営主体>関係機関や団体との連携により、社会教育施設の利用拡大と提供できる学習プログラムの増加が期待できる。

大分県教育委員会では、令和4年度から「生涯を通じた障がい者の学び支援事業」を始め、障がいのある方が学校を卒業した後も、住んでいる地域の中で好きなことや、やってみたいことができたり、仲間や友達と交流できたりするような場を広げていく取組を進めている。

### 生涯を通じた障がい者の学び支援事業

～共に生き、学ぶ社会の実現に向けた生涯学習支援に関する実践研究～

『学校卒業後における障害者の学びの支援に関する実践研究』(国庫委託10/10)

**障がい者を巡る現状と課題**

- 生涯学習に関するニーズや実態(学習団体や活動者数、活動内容等)を把握できていない。
- 卒業後、自立や社会参加、健康維持のための体育的・文化的・芸術的な学びを継続して行える場やプログラムが少ない。
- 生涯学習に関する情報を得ることが難しい(したいことがあっても窓口が見つげづらい)。
- 生涯にわたり学び続ける必要性についての県民の理解や協力への意識付けが十分でない。

～共生社会の実現に向けた、障がい者の生涯学習支援～

**【推進協議会(コンソーシアム)の実施】(年3回)**  
(内容) 関係機関のネットワーク化(情報や課題を共有し、取組を協議)  
(構成) 県教委、県福祉保健部、特別支援学校、大分大学、大分市教委、県社会福祉協議会、企業、障がい者支援NPO団体、PTA

**【調査研究】**  
(対象) ①障がい者(当事者) ②家族、特別支援学校等の職員、支援者等(当事者の関係者)  
(内容) 卒業後の生涯学習活動に対する意識や学習経験、ニーズと実態(実施状況)、障がい者を取り巻く課題に関する調査を実施

**【実践研究】**  
○大分大学による、障害者を対象とした生涯学習講座の実施  
公開講座(例)「心理学:みんながハッピーになるための心理学」  
○社会教育関連施設における学習の場や学習プログラム、居場所の提供  
例) 教養講座、陶芸、押し花、アクアリウム等作品制作、障がい者スポーツ  
○特別支援学校での生徒・保護者に対する生涯学習についての啓発と「卒業後の学び」への誘導

**【普及啓発】**  
○支援者の養成のため、市町村職員向けの研修を実施  
○隣県も対象とした「広域コンファレンス(実践交流会)」を開催し、情報共有と成果普及  
○障がい者の生涯学習に関する情報発信 ①「まなびの広場おいた」に専用ページ創設 ②リーフレット作成 等

**参考資料**

**【大分県の障がい者の状況】**  
○障がい者数(93,702人)  
身体障がい者60,859人、知的障がい者10,897人  
精神障がい者11,313人、難病患者 10,651人  
(R3「県障がい福祉計画」/「県障がい福祉計画」より)

○支援学校卒業予定者 198人(R3年度)  
※毎年の約200名が卒業

○県障がい者スポーツ協会所属団体数 24  
大分市14 別府市5 宇佐2 日出1 臼杵1 日田1 (協会HPより)

**【福祉法令等】**  
○障害者権利条約(026年)  
障害のある人が成人教育及び生涯学習において良質な教育を受けられる公平な機会を与えられる(第24条 教育)  
○障害者差別解消法(020年)  
全ての国民が障害の有無によって分け隔てられることなく、相互に人格と個性を尊重し合いながら共生する社会の実現に資する(第1条)

**【重点:1年目】**  
①コンソーシアム体制整備  
②調査研究 ③HP開設  
④実践研究の実施

**【重点:2年目】**  
①県下への普及(研修・HPの拡充)  
②社会教育施設での講座拡充

**【重点:3年目】**  
①大学の公開講座の定着  
②生涯学習に関する情報一元化  
→県民へのアクセスを保障  
③障害の有無に関わらず地域住民が共に学べる講座数増大  
④持続的な取組体制の構築  
(知識・ノウハウの蓄積  
→市町村への助言・支援)

**効果**

- 障がい者の生涯にわたる学びの場の拡大・充実
- 障がい者の喜びや生きがいの創出
- 障がい者が自立して健康的な社会生活を営むために必要な力の維持・開発・伸長

「かたろうえ大分」HPより

ここでは、令和6年（2024年）1月21日（日）に大分市で開催された「共に学び、生きる共生社会コンファレンス（九州・沖縄ブロック大会）おおいたでかたろうえ！vol.2」における報告・発表の中から、障がいのある方を対象にした青少年教育施設や公民館での実践について取り上げる。（令和5年度）

■青少年教育施設でのワンデイキャンプ（対象者：就労支援施設利用者、施設職員）

会 場	開催数	参加者数	内 容
かかぢ 香々地青少年の家	6回	就労者159人 職員 51人	・マイスプーンづくり ・ハイキング、所内散策 ・ペタンク 等
このえ 九重青少年の家	2回	39人	・所内散策 ・写真立てづくり ・プラネタリウム 等



香々地:所内を散策して集めた葉っぱで工作



九重:ペタンク 黄色い的に近づけ方が勝ち！



香々地:所内散策で植物の生態を学ぶ参加者



香々地:プラネタリウムも好評

■社会教育施設（モデル公民館）での講座（対象者：知的障がいのある方、サポーター）

会 場	開催数	内 容
豊後大野市千歳公民館 （ひょうたんカレッジ）	7回	・障がい理解講座 ・五感の学び（太鼓、ダンス） ・レクスポーツ体験（ディスコン、モルック） ・ユーチューバーの学び ・カフェ（ピザづくり、おいしいコーヒーのいれ方） ・たのしい工作（ひょうたんランプ） ・みだしなみの学び（お化粧／スキンケア）

由布市庄内公民館	4回	・ボッチャ ・風船バレー ・読み聞かせ ・手遊び ・ものづくり ・プラネタリウム ・おやつづくり
中津市生涯学習センター — まなびん館	3回	・料理教室（3回）



様々な体験活動を通して、人との関わり方を学んだり参加者同士がふれあいを楽しんだりできるよう、支援者や学生サポーターの協力を得ながら工夫して実施されていた。運営する側のある公民館担当者は、「初めてのことで悩むことも多いが、先進事例に学び、他機関や団体との連携を図りながら、『とにかくやってみよう！（try&error）』という姿勢で一歩ずつ進めている」と語っていた。

#### <成果>

- ・障がいの有無に関係なく、共に学び、交流する場を提供することができた。
- ・利用者が取り組みたい活動を選択したり、十分な活動時間を確保したりしたことで満足度の向上につながった。
- ・ご家族、関係機関や学生ボランティア等の協力を得ながら、安心して楽しい活動を運営することができた。
- ・初めての事業で不安があったが、実施してみることで施設職員の対応力が向上するとともに、「できることからやってみよう」という意識の変化につながった。

## <課題>

- ・講座運営にあたり活動をサポートするボランティアや支援者の養成が必要。
- ・誰もが利用しやすいように、会場までの移動を含め、ユニバーサルデザインやバリアフリーの視点での施設の見直し。

## 【おススメ情報】

大分県教育委員会が運営するサイト「かたろうえ大分」では、障がいがある方の「学びたい!」「仲間と楽しく交流したい!」という願いを叶える様々なイベントや団体情報を載せている。( <https://www.kataroue-oita.jp/> )



## 【サイト内の一部を紹介(大分県の取組のポイント)】

### ★ 国の取り組みについて(文部科学省)

- 障がい者の生涯学習の推進について
- 公開動画について

### ★ 大分県の取り組みについて

- コンソーシアム(推進協議会)について
- 調査研究について
- 実践研究について(令和4年度、令和5年度)
  - ・大分大学の公開講座
  - ・青少年教育施設でのワンデイキャンプ
  - ・特別支援学校での講座
  - ・地区公民館での講座
- 普及啓発について
  - ・共に学び、共に生きる共生社会コンファレンス
  - ・支援者・指導者育成のための行政職員を対象とした研修

障がい者の生涯学習推進に関わる情報が一元化されており大変参考になる。

今後、熊本県でも、先進事例を参考にしながら、体験や交流の場を提供したり、支援者を養成したりするなど、学びの機会を保障していくことが求められている。

# 令和5年度(2023年度)生涯学習に関する調査票

別紙様式 1

この調査は、県内の生涯学習講座の現状等を調査し、生涯学習振興を図るための資料とすることを目的としています。御多用の折とは存じますが、調査の趣旨を御理解の上、御協力いただきますようお願い申し上げます。なお、調査結果は、「調査研究事業報告書」としてまとめ、公表いたします。

## ○記入について

- ・ 選択式の質問は、該当する選択肢のセルに○印をつけてください。
- ・ 記述式の質問は、該当があれば内容を記述ください。

## ○提出について

御記入いただきました調査票は、令和6年(2024年)1月15日(月)までに、メールにて御提出ください。

〔提出先〕 熊本県教育庁市町村教育局社会教育課(担当:池端) メール:ikebata-k@pref.kumamoto.lg.jp

市町村名		所属	
記入者	職	名前	
連絡先	電話番号	メールアドレス	

## 本年度の主催講座・講演会について

問1 本年度、貴市町村の教育委員会(公民館等も含む)主催で、生涯学習に関する講座や講演会を実施しましたか。(予定も含む)

- ア 実施した(する予定) → 問2へ  
 イ 実施していない(予定していない) → 理由:   
 → 問3へ(3ページへ)

問2 問1で「ア 実施した(する予定)」と回答した市町村にお尋ねします。

(1) 本年度実施した(予定)講座や講演会の学習領域に○印をつけてください。〔複数回答可〕

- ア 健康
- イ 家庭・家族(子育て・家庭教育)
- ウ 環境／人口・食糧／資源・エネルギー
- エ 高齢化社会
- オ 生命
- カ 豊かな人間性
- キ 消費者問題
- ク 地域の連帯／まちづくり
- ケ 男女共同参画型社会
- コ 科学技術
- サ 情報の活用
- シ 国際理解／国際貢献・開発援助
- ス 防犯・防災
- セ 食育
- ソ 法教育
- タ 経済
- チ 起業
- ツ 人権
- テ 職業上必要な知識・技能
- ト 個人のキャリア開発
- ナ ボランティア活動の推進
- ニ 趣味的なもの(音楽、美術、華道、舞踊、書道、レクリエーション活動、スポーツ、料理、創作活動 など)
- ニ 教養的なもの(文学、歴史、語学、科学 など)
- ネ その他

(2) (1)の講座等の合計実施回数を下から選んでください。(予定も含む)

- ア 1～5回
- イ 6～10回
- ウ 11～20回
- エ 21～30回
- オ 31回以上

(3) (1)の講座等の実施形態について、当てはまるものを選んでください。

- ア すべて1回ごとの単発の講座や講演会である。
- イ 連続した講座や講演会もある。  
(「連続した」とは、1つのテーマで異なる内容の講座を複数回実施すること)

(4) (1)の講座等の学習領域を選んだ理由は何ですか。〔複数回答可〕

- ア 地域の大きな課題だから
- イ これまで継続して実施しているから
- ウ 住民のニーズが高いから
- エ 他の市町村でも実施しているところが多いから
- オ 他部局や関係団体等との連携が可能だから
- カ 講師選定が容易だから
- キ 人が集まりやすいから
- ク その他

(5) (1)の講座等を実施するにあたり、連携・協力した個人・機関(構成員を含む)がありますか。

- ア ある  
連携・協力した個人・機関を下から選んでください。〔複数回答可〕
  - ア 他市町村教育委員会(公民館等を含む)
  - イ 首長部局
  - ウ 学校教育関係機関
  - エ 大学等高等教育関係機関
  - オ 社会教育関係団体
  - カ NPO法人他、民間団体
  - キ 民間企業
  - ク (講座受講生などの)一般住民
  - ケ その他

イ ない → 問2(7)へ

(6) (5)の機関とは、どのような内容や場面で連携・協力しましたか。〔複数回答可〕

- ア 企画時の相談、情報提供
- イ 講師派遣等の人的支援
- ウ 施設設備、機材教材等の提供
- エ 参加者の募集等の広報面での補助・分担
- オ 事業の成果を広めるための連携・協力
- カ 経費面での補助・分担
- キ 当日の運営面での作業分担、協力
- ク その他

(7) (1)の講座等はどのような学習形態でしたか。〔複数回答可〕

- ア 講義・講演会形式
- イ ワークショップ
- ウ フォーラム・シンポジウム
- エ 現地学習
- オ 体験活動
- カ 個別相談
- キ インターネットにおける一方向の配信(リアルタイム・オンデマンド)
- ク インターネットにおける双方向の配信
- ケ その他

(8) 広報はどのような手段で行っていますか。〔複数回答可〕

- ア チラシ、ポスター配布
- イ 関係機関・団体への直接依頼(チラシの送付)
- ウ 回覧板での通知文回覧
- エ ホームページ掲載
- オ 広報誌掲載
- カ 広報誌以外の生涯学習に関する情報誌の発行
- キ SNSへの掲載
- ク 地域の無線利用
- ケ その他

(9) 講座評価をどのように行っていますか。〔複数回答可〕

- ア 参加者に対するアンケート調査
- イ 担当者等による評価
- ウ 外部委員による評価
- エ 講師による評価
- オ その他
- カ 実施していない

(10) どのような人が講師を務めましたか。〔複数回答可〕

- ア 生涯学習関係課職員や公民館職員
- イ 他部局の職員
- ウ 地域住民
- エ 県や他市町村からの派遣
- オ 大学・研究機関からの派遣
- カ 民間業者を介して依頼
- キ その他

(11) 講師情報をどのように得ていますか。〔複数回答可〕

- ア インターネット情報
- イ 住民(受講参加対象者)の要望
- ウ 他市町村に聞く
- エ 所属内で検討する
- オ リストを作成している
- カ 講座内容に関連した他部局や団体等に聞く
- キ 講師情報の提供を行っている機関等に聞く
- ク 例年同じ人に依頼
- ケ その他

(12) 住民が参加しやすいように、どのような支援を行っていますか。〔複数回答可〕

- ア 駐車場の確保
- イ 送迎バス等の運行
- ウ 託児の実施
- エ 手話通訳、要約筆記
- オ 音声ガイド
- カ スロープ、多目的トイレ等の設置
- キ 休日や夜間の開催
- ク インターネットにおける一方向の配信(リアルタイム・オンデマンド)
- ケ インターネットにおける双方向の配信
- コ その他

### 学習成果活用を目的とした事業について

問3 学習成果活用を視野に入れた講座(人材育成や仲間づくり、人材活用等)を実施しましたか。(予定も含む)

- ア 実施した(する予定)  

(講座名)	(内容)
-------	------

イ 実施していない(予定していない)

### 子供を対象とした事業について

問4 本年度、子供を対象とした事業を何か実施しましたか。(予定も含む)

- ア 実施した(する予定)  

(事業名)	(内容)
-------	------

イ 実施していない(予定していない)

### 障がい者の生涯学習の推進等について

問5 様々な障がいについての理解や障がいがある方への支援に関する講座を実施しましたか。

ア 実施した(実施する予定)

(具体的に)

イ 実施していない(実施する予定はない)

### 社会の変化やニーズに応じた工夫や取組について

問6 今年度実施した(または実施予定の)事業における工夫や取組(例:新規開設講座、成果があった取組等)について1つ御記入ください。

(具体的に)

### 住民への提供が必要だと考えられる事業について

問7 今後、住民への提供が必要だと考えられる事業の学習領域に○印をつけてください。〔複数回答可〕

- ア 健康
- イ 家庭・家族(子育て・家庭教育)
- ウ 環境／人口・食糧／資源・エネルギー
- エ 高齢化社会
- オ 生命
- カ 豊かな人間性
- キ 消費者問題
- ク 地域の連帯／まちづくり
- ケ 男女共同参画型社会
- コ 科学技術
- サ 情報の活用
- シ 国際理解／国際貢献・開発援助
- ス 防犯・防災
- セ 食育
- ソ 法教育
- タ 経済
- チ 起業
- ツ 人権
- テ 職業上必要な知識・技能
- ト 個人のキャリア開発
- ナ ボランティア活動の推進
- ニ 趣味的なもの(音楽、美術、華道、舞踊、書道、レクリエーション活動、スポーツ、料理、創作活動 など)
- ニ 教養的なもの(文学、歴史、語学、科学 など)
- ネ その他

### 生涯学習推進上の課題や悩み等について

問8 生涯学習を推進する上での課題や悩みがありますか。

- ア ある → 問9へ
- イ ない → 問10へ

問9 問8で「ある」と答えた方にお聞きます。課題や悩みの内容をお教えてください。〔複数回答可〕

- ア 住民のニーズの把握が難しい
- イ 講座企画が難しい
- ウ 人が集まらない
- エ 受講生が固定化している・新規受講生の獲得が難しい
- オ 講師選定が難しい
- カ 首長部局や関係機関との連携が難しい
- キ 講座等で学習したことを活動につなげることが難しい
- ク 予算が限られている
- ケ 職員研修の機会が少ない
- コ 職員数が少ない
- サ 研修等に関する住民からの相談や対応が難しい
- シ 住民同士のつながりづくりが難しい
- ス 施設の老朽化が進んでいる
- セ その他

**その他について**

問10 (1) 社会教育指導員に対する研修を実施していますか。(社会教育指導員が配置されていない市町村は「イ 実施していない」を選択してください)

- ア 実施している(実施予定) → 問10(2)、(3)へ
- イ 実施していない → 終了

(2) (1)の研修は、年間、何回実施していますか。数字を入力してください。

回

(3) (1)の内容を具体的に御記入ください。

発行者：熊本県  
所属：熊本県教育庁市町村教育局  
社会教育課  
発行年度：令和5年度(2023年度)